



紀元二千五百三十三年四月開版

近代月表

東京書肆

玉巖堂



題近代月表

知化丁未七月和蘭軍艦未於長崎
白西洋諸國將未請互市之狀予
蹶然以作曰天下其始多事遂巡
覽總房相豆之海岸謂近海可虞
者外則下田裏則本取乃上書於
當茲陳備禦之方不報至嘉永癸

11 57254

丑米艦四隻入於浦賀海內雖然
自時厥後舟艦輻輳如秋葉然池
以至今日其間機變如織隨事言
便百者四十餘疏皆不報之閱此
表泄事歷之上心恍若昨夢感何
可言也方今

王政復古庶績其熙萬無可虞

者然夷焰之盛則甚於往日矣
昔唐虞之盛者愈吁咈於一室之
上以舜之大聖禹猶戒之以無若
丹朱傲然則警戒畏慎者聖王之
之所以安天下也苟讀此書者以
為殷鑒思勿使後之視之若今之
視漢書知不其為易代之一助哉

古今月表
卷一
三
齡木氏撰表之意甚在於斯乎明
治辛未秋七月下浣息軒安井
衡題

近代月表叙言

和化甲辰之季佛蘭西人贈書於琉
球國王勸為屬國自是而後
皇國始有外國之患矣嘉永癸丑米
利堅人來於相模海強請互市而國
勢一變矣文久壬戌鎮西諸藩士會
京師議攘夷而國勢又變矣嗟夫後
來之變革果如何哉余嘗抱杞憂慨

然欲有所為記錄時事者有年於此
矣。今茲甲子之夏獲罪屏居謝絕人
事偶閱古筐不能無感即抄錄而作
月表以便座右之觀覽云爾
元治甲子仲秋蘭臺鈴木 大書江
戶小石川邸舍

例言

- 一 此書務テ天下ノ變革ヲ觀ルコトヲ要ス故ニ專ラ大
事及外國ノ事ヲ記シ尋常ノ事ハ略ス
- 一 大老老中ハ天下命脈ノ関スル所ナリ故ニ其進退ヲ
記ス
- 一 安政戊午以後ハ京師ノ事ヲ觀ルカ為ニ所司代ノ進
退ヲ記ス
- 一 外國船出入ハ開港以前ハ一々之ヲ記ス開港以後ハ
事アル者ノミヲ記ス
- 一 諸侯ノ事ハ天下ノ事ニ関ス者ノミヲ記ス

一諸侯ハ居城在所ノ名ヲ記ス岡部侯ハ即チ安部氏ノ如シ

一公卿朝臣等書法アリト雖省文ヲ要スルカ故ニ之ヲ略シ諸侯ノ外三位以上ヲ公ト書ス一家ノ私言ト知ヘシ

一外國ノ國名ハ一字ヲ記ス「ロシヤハ魯イギリスハ暎」
「フランスハ佛ト記スルノ類ナリ

一文久壬戌ノ年ニ至リ諸侯京師ニ至ル者多シ大諸侯ハ記ス其餘事ナキ者ハ記セス

一命令 敕命ヨリ出ル者ハ京師ニテ表發ノ日ヲ記スル者アリ江戸ニテ表發ノ日ヲ記スル者アリ一ナラ

ス右ハ其時京師ノ事情ヲ見ルニ足ル者ハ京師ノ日ヲ記シ江戸ノ事情ヲ見ルニ足ル者ハ江戸ノ日ヲ記スト雖一々の當セサル者亦多シ煩ヲ去ル為メ已コトヲ得サルナリ

一諸侯京師ニ至リ江戸ニ至ルノ日モ右ニ准ス

一諸藩士ヲ幕府ノ人トナシ又大將軍ニ謁見セシムルハ時勢ヲ見ルノ一端ナルカ故ニ之ヲ記ス并ニ有名ノ人死スル者モ之ヲ記ス

一外國船出沒シテ某國ト的知シ難キ者ハ異船トノミ記ス

一外國人應接等事ノ大略ヲ記スル者アリ記セサル者

アリ右ハ秘シテ知ル可ラサル者多シ故ニ之ヲ欠ク
ナリ後ニ補正スヘシ

此書モト二十年ヲ以テ限リトスト雖後ニ之ヲ補ヒ
徳川氏將軍職ヲ辞スルノ日ヲ以テ終リトス唯甲子
後變故極テ多ク四年ニシテ前二十年ト匹スルニモ
至ルヘク且ツ未タ脱稿セサルカ故ニ癸亥迄ヲ以テ
上卷トシテ發兌シ甲子ヨリ後ヲ下卷トシ數月ノ後
發兌スヘシ

一此ノ書余一人ノ筆記ニ本ツク者ナル故ニ遺漏異同
モ多カルベシ四方君子補正スル所アレハ幸甚ナリ



近代月表卷之上

常陸 鈴木 大 輯



仁孝 弘化元年甲辰 大將軍慎徳公○天皇即位ヨリ
宣下ヨリ七年

正月

二月

三月

十一日佛船琉球ニ来リ書ヲ贈リ附属ヲ勸メ佛人一

人清人一人ヲ留テ去ル

四月

五月

近代月表

近代月表

五日水戸侯ニ隱居慎ヲ命ス外國ヲ憂ヒ武備ヲ修ル
ヲ以テ疑フナリ世子封ヲ襲フ高松侯後見タリ
十日江戸本丸災アリ大將軍西丸ニ移ル
十三日松代侯老中ヲ免セラル

六月

十四日濱松侯飯田侯老中タリ
十六日長崎ニテ蘭人本國軍船来ル旨ヲ言フ明日長
崎奉行ヨリ九州諸侯ニ守衛ヲ命ス

七月

二日蘭軍船長崎ニ来ル

八月

四日長崎ニテ蘭人國書ヲ呈シ各國ト交易セサレハ
兵端ヲ開クニ至ント忠告ス
五日古河侯老中ヲ免セラル
七日海岸守衛ヲ嚴ニシ且海ノ深淺ヲ申出ヘキ旨達
アリ

九月

十一日長崎奉行ニ蘭人ヲ歸ラシメ返書ハ在留カヒ
タンニ渡ス旨ヲ命ス明年六月朔日老中ヨリ返書
ヲ出シ祖法違フヘカラサルノ旨ヲ云

十月

九日蘭人上言ハ交易ノ事ノ外他事ナキ旨達アリ

廿日水戸藩武田彦九郎吉成又衛門水戸老侯ノ冤ヲ
老中ニ歎願ス

廿九日文政中ノ二分判ニ朱銀一朱銀通用ヲ止ム旨
達アリ

此月水戸領民多ク出府水戸老侯ノ冤ヲ訴フ
十一月

十六日水戸老侯ノ慎ヲ宥シ政事ニハ不可関旨ヲ命
ス

十二月
十三日弘化改元ノ達アリ

廿八日篠山侯老中タリ

弘化二年乙巳

正月

廿七日本丸普請ヲ始ム二月廿八日大將軍本丸ニ移
ル

廿八日水戸藩武田魁介吉成恒次郎父ノ願意ヲ達セ
シ事ヲ老中ニ歎願ス

二月

十日米國鯨漁船安房ニ来リ阿波及陸奥南ノ漂民十
二人ヲ送ル三月十五日食糧ヲ與テ去ラシム

廿一日濱松侯老中ヲ免セラル飯田侯三千石ヲ減シ
隱居逼塞ヲ命ス

廿六日水戸領民數十人水戸老侯ノ冤ヲ老中ニ駕籠
訴ス

三月

十日濱松侯ヲ糾明ス

十二日水戸藩桑原幾太郎豊田彦次郎水戸老侯ノ冤
ヲ老中ニ歎願ス此後歎願スル者十餘人ニ至ル
十八日宇都宮侯老中タリ

四月

五月

六月

七月

三日暎船長崎港外ニ来リ薪水ヲ乞テ去ル

八月

二日大番一組宛調練ヲナスヘキ旨達アリ

九月

二日濱松侯二万石ヲ減シ隠居慎ヲ命ス

六日大將軍白書院ニテ諸有司ノ武藝ヲ見ル

十月

三日鳥井甲斐守ヲ丸龜侯ニ澀川六藏ヲ白杵侯ニ預
トナス

十一月

晦日濱松館林山形三侯ニ所替ヲ命ス

十二月

今上天皇 弘化三年丙午

正月

元日水戸侯支族松平申之介水戸老侯ノ冤ヲ和歌山
侯ニ歎願ス

二月

六日 仁孝天皇崩

三月

十七日 紘仁親王踐祚

廿二日 江川太郎左衛門ニ命シテ伊豆諸島ヲ巡視セ
シム

四月

五日 暎船琉球ニ来リ醫一人及其妻子四人ヲ置テ去
ル

六日 佛船同上辰年来リ居ル佛人ニ逢テ去ル

廿二日 菽侯ニ鞍鐙ヲ賜フ國政脩ルヲ以テナリ

此月異船東海道海上ニ出沒ス

五月

十一日 米人七人東蝦夷エトロフニ漂来明年五月箱

館ヨリ長崎ニ送り同九月蘭人ニ託ス

十八日 熊本侯ニ時服鞍鐙ヲ賜フ國政脩ルヲ以テナ
リ

閏五月

十日 先帝皇女 和宮降誕

十九日 此日ヨリ廿一日迄異船紀伊海ニ出沒廿五日

遠江海ニ同斷

廿七日 米船二艘浦賀ニ來リ交易ヲ請フ許サス六月

七日 去ル

廿八日 平戸藩朝川鼎ニ命シ大將軍ニ謁セシム

廿九日 鹿兒島侯世子ニ遷ニ歸國ノ暇ヲ賜フ琉球ノ

事ヲ以テナリ

六月

六日 佛船三艘長崎港外ニ來リ薪水ヲ乞九日去ル

七月

此月下旬關東大水

廿五日 高島四郎大夫ヲ中追放トナシ岡部侯ニ預ケ

神代徳次郎同斷多固侯ニ預ケ外二十餘人ヲ刑ス

八月

十三日 英船三艘琉球ニ來リ國王ニ逢ンコトヲ請諸

所測量馬上ニテ遊歩廿八日去ル

廿日 鹿兒島侯琉球ノ事ヲ以テ明春早ク歸國セン事

ヲ請

廿二日 海岸ヲ嚴ニシ 神州ノ瑕瑾無之様ニ救命ア

九月

十月

十一月

十二月

弘化四年丁未

正月

二月

十五日川越侯彦根侯ニ相模若松侯忍侯ニ上総安房

守衛ヲ命ス

三月

廿日異人松前ニ上陸又津輕邊海ニ往来シテ屢上陸

食糧ヲ乞フ

廿八日異船箱館海ニテ南部ノ商船ニ尾張ノ漂民九

人ヲ託シテ去ル

四月

廿五日 敕使ヲ男山ニ發ス異船ノ事ヲ以テナリ

五月

廿四日信濃地大震

六月

廿七日大將軍大川筋ニテ番士水中ノ調馬ヲ見ル

晦日佛船二艘朝鮮ニ上陸滞留ス

此月蘭人長崎ニテ香港ノ英國官吏來ル旨及西洋諸

近世月記 卷三

國交易ヲ請フ為メ明春盟主ヨリ使節ヲ出ス旨ヲ
上言ス

七月

廿八日浦賀奉行ヲ諸大夫席トナス

八月

十五日朝鮮聘使来ル辰年大坂ニ来ル旨達アリ實ハ

朝鮮難辞ヲ設テ来聘セサルナリト云

廿二日海岸守備ヲ修メ并文武ヲ精勵スヘキ旨達アリ

九月

朔日水戸侯弟七郎麻呂ニ一橋家相續ヲ命ス

十月

十一月

九日百目以上ノ砲新鑄ハ届ケ出ヘキ旨達アリ

十二月

嘉永元年戊申

正月

二月

三月

四日此日ヨリ十七日マテ異船十九艘對馬海ヲ通行

ス

十日異船松前海岸ヲ往来ス

近世月記 卷三

近世月表 卷三

十五日嘉永改元ノ達テリ

十七日十八日異船南部海岸ヲ往来ス

廿日異船津輕海ヲ往来ス

廿五日異船五艘食糧ヲ津輕ニ乞テ去ル

四月

二日異船松前ニ滞泊端舟ニテ海岸ヲ往来

十一日大將軍駒場ニ狩ス

十六日佐渡海ニテ異船弘前侯廻船ノ大豆ヲ掠メ去ル

此月異船陸奥出羽ノ海上ニ出没ス

五月

六月

七月

十二日津侯ニ鞍鎧ヲ賜フ國政脩ルヲ以テナリ

八月

九月

三日篠山侯老中ヲ免セラレ

十月

十八日西尾侯上田侯老中タリ

十一月

十二月

此年北國海上異船通行ノ多キ近世見サル所ナリト

近世月表 卷三 一

嘉永二年己酉

云

嘉永二年己酉

正月

十九日此日ヨリ廿五日迄異船十餘艘對馬海ヲ通行ス

二月

朔日此日ヨリ五日迄異船二十餘艘對馬海ヲ通行ス
十八日異船隱岐海ニ出沒ス

三月

十日異船肥前海ニ出沒ス
十三日高松侯水戸侯ノ後見ヲ止メ水戸老侯國政ニ

関スヘキ旨ヲ命ス

十五日蘭醫ヲ禁スル旨達アリ

十八日大將軍小金ニ狩ス

廿六日米船長崎ニ来リ漂入ヲ載セ歸リ度旨ヲ云四月九日去ル

四月

三日異人朝鮮利原ニテ材木ヲ伐リ去ル

十六日米人南部大畑ニテ上陸食物ヲ乞テ去ル

閏四月

五日異船松前海ニ出沒ス

八日英船浦賀ニ来ル願ヒ等無之唯来ル旨ヲ云十二

近代月表

卷上

十

日下田ニ上陸江川太郎左衛門之ヲ諭ス十七日去
ル大島ニモ上陸ス

五月

三日異船日向海ニ出沒ス

五日評定所一座ニ命シ海防策ヲ議セシム

八日諸侯供連ヲ減シ供馬供槍無用等ノ旨達アリ

六月

朔日異人三人北蝦夷ヲタロヘニ上陸本船ニ棄ラル
、旨ヲ云

七月

四日神代徳次郎多固ヲ脱走廿四日京師ニテ捕フ此

冬死罪トナス

十日福江松前ニ命シ新城ヲ築カシム

十九日廿日異船松前海ニ出沒ス

八月

四日諸侯領内練兵ニ空砲ヲ發スル事ヲ許ス旨達アリ

リ

九月

廿一日大將軍水戸侯ノ邸ニ行ク

十月

廿七日郭外三十町ノ地練兵ヲ許ス旨達アリ

十一月

行代月長

卷二

五かニ

一

十二月

廿八日昨年今年異人所々上陸ニ付守備スヘキ旨達
アリ

此月英船天草ニ来ル

嘉永三年庚戌

正月

二月

廿九日石河土佐守等ニ命シ豆相房總ノ海岸ヲ巡視
セシム五月十三日發途ス

三月

十一日異船常陸海ニ出沒ス

十八日蘭人登城ス例ニ由テナリ

廿八日二本松藩安積勇介ヲ儒者トナス

四月

五月

十九日海防ノ事ニ付浮説人心ヲ動スヲ禁スル旨達
アリ

此月北陸道海上異船通行アリ

六月

十一日蘭人長崎ニテ英領印度人日本ニ交易セン事
ヲ英ノ政府ニ請フ政府之ヲ許スノ旨又米人交易
ヲ請フ為ニ日本ニ来ル旨ヲ上言ス

此月米人三十二人東蝦夷アツケレニ上陸返ラス七月命シテ長崎ニ送ル

七月

八月

九月

廿一日郭外二十町ノ地練兵ヲ許ス旨并角場ニテ鐵砲四季打ヲ許ス旨達アリ

同日臆斷杜撰ノ翻譯書ヲ禁スル旨達アリ

十月

十一月

十九日琉球人登城ス例ニ由テナリ

廿一日山形藩松下健藏等ヲ刑ス高野長英ヲ隠スヲ以テナリ先是長英健藏ノ家ニ隠ル捕ハレントスルニ及テ鬪死スルト云フ

同日佛船津輕海ニ出没ス

此月米人一人松前ニ上陸返ラス

十二月

此年異船松前海ヲ通行スルコト夥シト云

嘉永四年辛亥

正月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

此月漂民土佐宇佐浦漁夫万次郎米國ヨリ歸リ薩摩

ニ至ル

同蘭人長崎ニテ映人米人交易ヲ請フノ事其後風説

ナキ旨上言ス

八月

九月

十月

十一月

十四日浪人前田健介檢校塙次郎ニ命シテ大將軍ニ

謁セシム

十二月

廿一日閑宿侯老中タリ

嘉永五年壬子

正月

二月

閏二月

三月

十五日 敕シテ和氣清麻呂ニ正一位護王大明神ノ

号ヲ贈賜ス

四月

五月

六日彦根侯ニ命シ浦賀守衛ヲ兼子シム

同日大森村ニ大砲打場ヲ造ル旨達アリ

廿二日江戸西丸災アリ

廿四日魯船下田ニ来ル廿九日肥前ノ漂民七人ヲ置

テ去ル

六月

七月

八月

此月蘭人長崎ニテ米人明年軍船ニテ来リ交易ヲ請

ヘシ寛ニセザレハ兵端ヲ開クヘキ旨上言ス

九月

朔日將軍ノ子長吉郎生ル明年八月十六日夭ス

廿二日皇子 祐宮降誕

十月

十九日朝鮮聘使延期ノ旨達アリ

十一月

廿一日水戸老侯登城ス獲罪ノ後此ニ至テ始テ登城

セリ

廿二日寶藏災アリ東照宮初陣ノ甲冑并ニ宇治茶誥

嘉永六年癸丑

十二月
メヲ始メシ時ノ茶壺等焼亡ス

嘉永六年癸丑 大將軍温恭公

正月

二月

二日東海道地大震相模尤甚シ

三月

四月

此月金澤侯領民錢屋五郎兵衛ヲ刑ス

五月

六月

三日米水師提督ヘルリ等軍船四艘浦賀ニ来ル六日

本牧沖ニ碇船

九日栗濱ニテ米ノ國書ヲ受ク同日米船小柴沖ニ入

リ十一日羽田沖ニ入ル十二日去ル

十五日 敕シテ 伊勢神宮并七社七寺ニ國家ノ寧

靖ヲ祈ル米人來ルヲ以テナリ

廿二日大將軍薨七月廿二日發喪慎徳院ト謚ス八月

四日芝ニ葬ル

廿七日米ノ國書ヲ三家并溜詰諸侯ニ示シ建議ヲ命

ス七月朔日万石以上ニ同斷

廿九日蘭人長崎ニテ魯船來ルヘキ旨上言ス

嘉永六年

十六

六

此月府中
馬對
侯ヨリ清國ニテ明ノ末葉一昨年ヨリ起
リタル旨上言ス

七月

三日水戸老侯ニ隔日登城ヲ命シ政事ニ預ラシム
六日大將軍ノ喪ニテ米國返書急ニ出シ難キ旨蘭人
ヲ以テ米人ニ通シ明春來ラサル様可致旨長崎奉
行ニ命ス

九日高田侯大砲六挺ヲ獻ス

十四日異船來ル時甲冑野服勝手ノ旨達アリ

十七日五ヶ年ノ間尤質素節儉ヲ勤ムヘキ旨達アリ

同日此日ヨリ彗星西方ニ出ツ

同日魯水師提督フーチャチン軍船四艘ヲ以テ長崎

八月
ニ來ル

六日高島四郎大夫ヲ宥ス

十九日魯ノ國書ヲ長崎ニテ受ク

晦日一陣ヲナス調練年ニ幾度ニテモ不苦旨達アリ

同日魯人北蝦夷クシユレコタンニ木營ヲ作ル

此月品川海ニ臺場十一築造ノ旨達アリ

九月

十五日諸侯ニ大船製造ヲ許ス旨達アリ

同日村上侯老中タリ

行代月表
卷上
ふ
二

十六日旗下ノ士ニ金ヲ貸シ武器ヲ作ルヘキ旨達アリ

廿八日砲術脩行并西洋流脩行可致旨達アリ

十月

八日筒井肥前守川路左衛門尉ニ命シ長崎ニ赴キ魯

人ト應接セシム晦日發途返書ヲ携フ

廿二日魯船長崎ヲ去ル十一月晦日再ヒ来ル十二月

十四日ヨリ應接ス

此月蘭人ニ託シテ軍船并兵書ヲ求ム

十一月

朔日明春米人扱方兵備無之ニ付平穩ニナス旨達アリ

リ

同日西洋流ニテ用ル蠻語ヲ禁スル旨達アリ

七日土佐漁夫万次郎ヲ普請役トナス

十四日萩侯熊本侯ニ相模ヲ岡山侯柳川侯ニ安房上

総ヲ鳥取侯ニ本牧ヲ彦根侯ニ羽田大森ヲ若松侯

ニ品川ニノ臺場ヲ忍侯ニ同三ヲ川越侯ニ同一ヲ

預テ守衛セシム明年四月二日四日両日ニ引渡ス

同日浦賀奉行ヲ二千石高トナス

廿三日將軍宣下アリ

十二月

十五日水戸侯大砲七十四挺ヲ獻ス

廿七日芝金杉ヨリ品川迄居民達次第急ニ退去スヘ
キ旨達アリ

同日新鑄一朱銀通用ノ旨達アリ

廿八日水戸老侯ニ年々米五千俵ヲ賜フ

此年ヨリ長崎ニテ踏繪ヲ廢ス

安政元年甲寅

正月

八日魯船長崎ヲ去ル當年中復来ル旨ヲ云ト云

十四日米船七艘本牧沖ニ入ル「ヘル」来ル廿七日神

奈川ニ入ル二月五日一艘来ル同廿一日一艘来ル

廿八日諸侯総登城アリ米船ノ事ヲ議スルナリト云

二月

八日堀織部正等ニ蝦夷地ノ事ヲ命ス三月初メ追次

發途

十日林大學頭并戸對馬守神奈川ニテ米人ト應接シ

漂民撫恤并欠亡ノ品ヲ與ル事ヲ許ス

十五日米人諸物ヲ獻ス

十九日下田箱館ヲ開ク廿二日米船二艘下田ニ行ク

廿六日米人ニ米ヲ賜フ

此月 敕シテ七社七寺并二十二社ニ國家ノ寧靖ヲ

祈ル

三月

三日横濱ニテ米人ト条約ヲ結フ

十三日米船羽田ニ入り直ニ出ツ

十八日水戸老侯海防掛ヲ免セン事ヲ請フ五月朔日

日々登城ニ不及旨ヲ命ス

廿一日此日迄ニ米船総テ下田ニ入ル

廿三日魯船三艘長崎ニ来ル

廿四日下田奉行ヲ二千石高トナス

廿七日元菽藩吉田寅次郎澀木松三郎金子重ヲ下田

ニテ捕フ四月六日獄ニ下ス外國ニ行ントスルヲ

以テナリ九月十八日蟄居ヲ命シ主人ニ預ケトナ

ス

四月

六日 内裏災アリ 主上下加茂ニ幸ス尋テ聖護院

ニ幸ス

同日松代藩佐久間脩理ヲ獄ニ下ス吉田寅次郎ヲ勸

テ外國ニ行シメントスルヲ以テナリ九月十八日

蟄居ヲ命シ主人ニ預ケトナス

七日林大學頭井戸對馬守等ニ米船下田ニ再来ノ時

ノ應接掛ヲ命ス

九日兵備無之不得已米人ノ願ヲ許スニ付水陸軍ヲ

精勵可致旨達アリ

同日彦根侯羽田大森ノ守衛ヲ止メ京師守護ヲ嚴ニ

スヘキ旨ヲ命シ徳島侯ニ羽田大森ノ守衛ヲ命ス
十六日此日ヨリ米船追次箱館ニ入ル
此月品川一二三臺場成ル

五月

十八日晴天無風大坂城石垣崩ル
同日北蝦夷滞留ノ魯人退去ル
廿二日林大學頭等下田ニテ米人ト条約附録ヲ定ム
廿六日米船総テ下田ヲ去ル

六月

十五日五畿内勢尾地大震
十七日米商船越後ノ漂民ヲ送テ小柴沖ニ来ル

廿六日箱館五六里四方ヲ幕府ノ地トナス
此月十日ヨリ堀織部正等蝦夷ヲ巡視ス

七月

五日水戸老侯ニ軍制改革ノ事ヲ命ス
六日蘭人長崎ニテ西洋騒乱買賣ノ軍船無之旨上言
ス
九日國中総船印白地ニ日ノ丸ヲ用ル旨達アリ
廿九日五両判通用ヲ止ル旨達アリ

閏七月

十五日英船四艘長崎ニ入ル「ステイル」リング来ル同
所奉行ニ書ヲ呈シ魯國ト戦フニ付日本諸港ニ船

ヲ繫ク事アルヘキ旨ヲ云フ
廿五日米船二艘下田ニ入ル「カナン」来ル廿九日同
一艘同断八月三日一艘去ル

八月

十三日此日ヨリ長崎ニテ水野筑後守咲人ト應接ヲ
ナス

廿三日咲人ト条約ヲ結ヒ長崎箱館ニ港ヲ開ク廿九
日咲船長崎ヲ去ル

同日福山藩山岡八十郎自殺ス侯ノ外國ト和スヲ諫
ムト云

晦日魯船箱館ニ来リ老中ニ書ヲ贈リ大坂ニ入ル旨

九月

ヲ云

十八日魯船大坂ニ入ル「ブーチヤチン」来ル十月三日
去ル

十月

八日講武所ヲ建ル旨達アリ地所數ヶ所ナリ後築地
ノミ成ル丙辰四月ヨリ開キ庚申正月小川町ニ移
シ築地ヲ海軍操練所トナス

十一日蘭人ニ下田箱館繫船ヲ許ス旨達アリ

十五日魯船下田ニ来ル

十一月

四日畿内并四國及東海道諸國地大震海溢ル伊豆甚
シ下田ニテ魯船此カ為ニ壞ル

十六日鳥取侯本牧守衛ヲ止メ品川ヲ松江侯ニ本牧
ヲ庄内侯ニ品川五ノ臺場ヲ松代侯ニ同六ヲ預ケ
守衛セシム

十八日小濱郡山ニ侯ニ京師膳所淀篠山高槻四侯ニ
同七口ノ守衛ヲ命ス

廿六日魯ノ壞船下田ヨリ戸田ニ赴ク途ニテ沈没ス
魯人戸田ニ留リスク子一ル船ヲ作ル

十二月

五日安政改元ノ達アリ

九日米船下田ニ来リ条約ヲ定ル事ヲ請十九日之ヲ
許ス

十二日巡見ヲ諸國ニ出ス事海防并地震等ノ故ヲ以
テ巳年迄延ル旨達アリ

同日佛船參河ノ漂民ヲ送り下田ニ来ル魯人戸田浦
ヨリ之ヲ襲ハントス佛船去ル

十八日米澤侯ニ時服ヲ賜フ曾祖父以來國政脩ルヲ
以テナリ

同日筒井紀伊守川路左衛門尉ニ下田取締ヲ委任ス

廿一日魯人ト条約ヲ結ヒ下田長崎箱館三港ヲ開ク

廿二日總テ鐵砲四季打ヲ許ス旨達アリ

廿三日 教シテ梵鐘ヲ以テ大砲トナサシム明年三月三日其旨達アリ然レトモ終ニ行ハレス
廿八日加太岩屋由良明石ニ臺場ヲ築クヘキ旨達アリ

此年魯人暎佛杜ノ三國人ト戦ヒ西洋大ニ乱ル

安政二年乙卯

正月

元日清商船伊勢田曾浦ニ来ル之ヲ長崎ニ送ル
十六日江川太郎左衛門死ス
廿七日米商船下田ニ来ル魯人ヲノセ魯國ニ送ル事ヲ約ス

二月

廿八日大將軍此日登城ノ諸侯ヲ乘馬セシメ之ヲ見
廿二日松前侯ニ東西蝦夷地島々追総テ幕府ノ地トナス旨ヲ命ス
廿八日米船一艘下田ニ来ル米國官吏ノ命ニテ魯人ヲ魯國ニ送ラレ事ヲ云

三月

四日佛船一艘下田ニ来リ七日去ル十一日又来リ魯人ノ居ヤ否ヲ問フ
十八日廿二日廿三日三度ニ佛船三艘長崎ニ来リ魯ト戦フニ付遽ニ船ヲ泊セシ事且ツ薪水ヲ給スル

事ヲ請フ

同日 内裏ノ普請ヲ始ム十一月廿三日 主上還幸セリ

十九日廿一日二度ニ咲船二艘長崎ニ来ル

廿七日米船二艘下田ニ来リ日本海測量ヲ請フ

同日仙臺侯秋田侯ニ蝦夷守衛ヲ命ス四月廿五日持

場ヲ命シ東蝦夷シラヲイヨリシレトコ追一圓子

モロエトロフクナレリ等仙臺西蝦夷ヲカムイヨ

リシレトコ追一圓北蝦夷其外島々等秋田持トナ

ス 此月五日ヨリ判物ヲ諸侯ニ賜フ大將軍新立ヲ以テ

四月

十日米人ニ測量願ハ追テ命スル所アルヘキ旨ヲ命

ス十三日米船去リ東北海ノ測量ヲナス

廿一日馬ノ筋ヲ延ル事ヲ禁スル旨達アリ

廿五日盛岡弘前松前三侯ニ蝦夷守衛ヲ命ス持場箱

館并エサシ岬ヨリホロヘツ追盛岡箱館并乙部村

ヨリヲカムイ岬追弘前箱館并七重濱ヨリ木古内

村追松前持トナス

五月

十一日講武所武藝兵法ニテ操練シ砲術ハ西洋流ヲ

學フヘキ旨達アリ

十八日十九日廿一日大將軍兩番士ノ甲冑ニテ乘馬スルヲ見ル

廿一日米船下田ニ来ル小銃二千餘ヲ載セ来ルト云

六月朔日去ル

廿二日鼠山ニテ下曾根金三郎大調練ヲナス

此月魯人フイチヤチン新造スク子ールニテカムサツカニ歸ル

六月

朔日米船フイチヤチンノ残シタル魯人ヲノセカムサツカニ送ル

七月

八日蘭人長崎ニテ蒸氣船并小銃ヲ獻ス

十日此日ヨリ十六日迄ニ暎船七艘長崎ニ来ル九月

十日迄ニ追次去ル魯國ヨリ侵サレタル地アラハ之ヲ日本ニ返サントテ國境ヲ問フト云

廿九日矢田堀景藏等ニ命シ蘭人ニ就キ蒸氣船運轉等ヲ學ハシム

此月石見ニ野鼠多ク田畑ヲ傷フコト夥シ

八月

四日西尾侯上田侯老中ヲ免セラレ

七日政事復古有之ヘキ旨達アリ

十三日魯嘆米ト条約ヲ結ヒタル旨并米人測量願ハ
不許旨達アリ

十四日水戸老侯ニ復夕隔日登城ヲ命ス

十五日水戸藩會澤恒藏若松藩黑河内十大夫津藩齋
藤德藏津山藩箕作玩甫高崎藩市川一角ニ命シ大
將軍ニ謁セシム

廿七日大將軍麾下ノ士ヲ軍行セシメ之ヲ見ル九月
二日七日十六日十八日同斷

九月
十月

二日江戸地大震死者夥シ水戸藩戸田忠大夫藤田誠

之進死ス

四日諸侯ニ勝手ニ暇ヲ賜フ旨達アリ

同日普請ヲ手輕ニ可致旨達アリ

九日佐久良侯老中タリ

十四日蝦夷開墾ヲ願フヘキ旨達アリ

十六日諸事簡易ノ制ニ復シ服制省畧火事發束花美
諸有司伊達道具臺傘立傘万石以下長捧駕籠ヲ禁
スル等ノ達アリ

十九日郭門番士省畧諸侯從者減省等達アリ

廿二日米船一艘下田ニ來ル測量願ハ軍船ヲ以テ答
ヲ聞ク旨ヲ云ト云

此月地震ニ付諸達シ多シ例事ニ非スト雖之ヲ略ス
十一月

七日金銀ヲ諸道具ニ用ルヲ禁スル旨達アリ
晦日江戸多人數ニ付諸侯ノ隠居等在所ニ行ク事ヲ
請フ者ハ請フヘク并定府人員ヲ減スヘキ旨達ア
リ

十二月

四日松前侯ニ奥羽ニテ四万石餘并年々金一万八千
兩ヲ賜フ
廿三日長崎ニテ蘭人ト条約ヲ結フ

安政三年丙辰

正月

四日諸國川普請諸侯ニ命セサル旨達アリ
廿三日大將軍出行ノ節窓蓋ヲナスニ不及旨達アリ
此月西洋ニテ魯杜暎佛和時ス

二月

此月蕃書調所ヲ九段坂下ニ建ツ丁巳正月ヨリ開ク

三月

此春下田箱館長崎ニ米暎等諸船屢出入アリ

四月

五月

十八日米人六人蝦夷「エサシ」ニ漂来ル

此月旭日丸成ル水戸老侯ノ作ル所ナリ

六月

四日二分金新鑄ノ旨達アリ

此夏下田箱館長崎ニ米映佛諸船屢出入シ獨船モ亦
来ル

七月

十一日蘭人長崎ニテ映船来ルヘシ魯國ト同様ノ扱
ニ致度旨并交易ヲ許スヘシト上言ス

十八日大坂両川口ニ臺場ヲ築クヘキ旨達アリ

十九日米船一艘下田ニ入ルハルリス来ル國書ヲ携
フ岡使トシテ永住并老中ニ面會等ノ事ヲ云

廿三日蘭人長崎ニテ交易ヲ諸國ニ許スヘキ等ノ事
ヲ忠告ス

廿八日箱館奉行ヲ三人高トシ蝦夷巡撫墾田ノ事ヲ
命ス

八月

四日評定所一座ニ命シテ蘭人上言ノ事ヲ議セシム

五日映船三艘長崎ニ入ルムセームール来ル佐賀侯
ノ番船突キ毀ラル溺死數人アリ十五日同一艘来

ル昨年ノ事ヲ議シ十八日去ル
六日米船下田ヲ去ルハルリス并通弁官ヒウスケニ

等柿崎玉泉寺ニ留住ス

同日蘭船長崎ヲ出九月三日下田ニ来リ嘆人ノ囑ヲ
上言ス

廿四日魯船長崎ニ入ル「フ」チヤチニ来ル明日同所
奉行應接ヲナス

廿五日関東大風江戸甚シ

廿七日米人下田ニテ洋銀ヲ三分ニ通用スル事ヲ請
フ

九月

十五日岩瀬肥後守下田ヨリ歸リ十ヶ所程開港ノ議
起ル

廿六日諸國巡見又戌年追延ル旨達アリ

此月嘆人清ノ廣東ヲ焼ク

十月

十七日佐久良侯ニ外國ノ事一人ニテ扱フヘキ旨ヲ
命ス

廿日諸有司ニ交易ヲ許ス調ヲ命ス

此月魯人下田ニ来リスク子一ル船ヲ返シ去年滯留
ノ恩ヲ謝ス

十一月

十二月

五日小濱藩杉田成卿ニ命シテ大將軍ニ謁セシム
十一日米岡使ハルリス申立ノ事件決議ヲ促ス

同日鹿兒島侯女大將軍ニ嫁ス十八日結婚
廿九日昨卯年十月當分著服省略ノ事明年ヨリ如原
旨達アリ

安政四年丁巳

正月

十六日評定所一座ニ米人ヲ江戸ニ召ノ調ヲ命ス

二月

五日蘭人長崎ニテ日本ノ外國ヲ扱フ機宜ヲ失フニ
付許ト許スヘカラサルト判然且ツ速ニ處置スヘ
キ旨忠告ス

廿四日評定所一座ニ廣東ノ事ニ付テモ寛永以前ニ

復レ外國ヲ緩優ニ扱フヘキ旨ノ評議ヲ命ス

三月

廿六日蘭人ヨリ獻上ノ蒸氣船品川ニ来ル

四月

十一日講武所ニテ海軍修行ヲナスヘキ旨達アリ

廿八日高松侯ニ大坂木津川口臺場ヲ松江侯ニ同安

治川口臺場ヲ預ケ守衛セシム松江侯本牧守衛ハ

止ム松山州侯ニ神奈川守衛ヲ命ス

五月

廿六日下田ニテ井上信濃守中村出羽守米人ト条約
ヲ結ヒ長崎ヲ開ク

閏五月

五日箱館通寶鑄造ノ旨達アリ

六月

十三日魯人蝦夷ナヨロニ上陸居住ス境界ヲ定ル為

メ國命ニテ来ルト云後去テウルツフニ行ク

十七日老中福山侯卒ス

十八日井上信濃守下田ヲ發シ歸府米人出府ノ事ヲ

議ス

七月

二日米人登城并交易ヲ許スニ付評定所一座等ニ調

ヲ命ス

廿一日米船一艘下田ニ来ル廿八日去ル

廿三日水戸老侯ニ脇指ヲ賜ヒ海防軍制ノ掛リヲ免

セラル

同日朝鮮聘使来ル寅年追延引ノ旨達アリ

廿四日溜誥諸侯ニ米人登城ノ旨内達アリ

八月

十一日龍野侯老中タリ

十三日米人登城ノ旨諸侯ニ達アリ

廿五日魯船一艘長崎ニ入ルフーチヤチニ来ル九月

七日追加条約ヲ定ム

廿八日本郷丹後守諸侯ニ列ス

同日米人登城ノ旨町觸アリ

廿九日長崎ニテ蘭人ト条約附録ヲ定ム

九月

十日長岡侯老中ヲ免セラル

十三日上田侯再ヒ老中タリ

廿一日番所飾付鐵砲ヲ西洋製ノ銃ニ改ル旨達アリ

晦日公卿二十三人ニ各咎ヲ命ス遊興ヲ以テナリ

十月

七日米人ハルリス下田ヲ發シ十四日江戸ニ来リ蕃

書調所ニ宿ス

十八日ハルリス佐久良侯邸ニ至リ國書ノ寫ヲ出ス

廿一日ハルリス登城國書ヲ呈ス

廿六日ハルリス佐久良侯邸ニ至リ重大事件ヲ上言

ス

十一月

朔日米國書翰心得ノ為ニ達アリ

二日此日ヨリハルリス江戸遊歩ヲナス

三日魯人蘭人ニ長崎箱館ニテ交易ヲ許シ餘國モ右

ニ准スヘキ旨達アリ

六日蕃書調所ニテ土岐丹波守等ハルリスト應接シ

交易并公使ノ事ヲ問フ

此月水戸人堀口克之介等三人ハルリスヲ刺ント欲

ス捕テ獄ニ下ス

十二月

二日佐久良侯邸ニテ「ハルリス」應接交易并ニ公使ヲ置ク事ヲ許ス

四日井上信濃守岩瀬肥後守等ヲシテ「ハルリス」ト假条約ヲ結ハシメ江戸大坂等七港ヲ開ク

十四日林大學頭津田半三郎京師ニ赴ク外國處置ノ事ヲ奏シ 敕許ヲ得ントスルナリト云 主上肯

タマハス明年三月十八日江戸ニ歸ル
十五日「ハルリス」上言ノ書ヲ諸侯ニ示シ非常變革ノ旨達アリ

十八日水戸老侯ニ旭日丸製造ノ褒賞ヲ賜フ

廿九日溜詰并譜代諸侯ヲ登城セシメ外國處置改革ノ旨ヲ大將軍自ラ諭ス晦日外様諸侯ヲ同断

同日當年迄節儉ノ事猶又成年迄同断ノ旨達アリ

同日川路左衛門尉永井玄蕃頭水戸邸ニ来リ老侯ニ謁シテ交易ヲ許ス事ヲ言老侯答ヘス

安政五年戊午 大將軍當公

正月

十四日深川越中島築造ニ付調練可致旨達アリ

廿一日佐久良侯京師ニ赴ク外國處置ノ事ヲ奏スト云二月五日京師ニ至ル

同日ハルリス下田ニ歸ル

二月

二日米人条約日光山東照宮ノ廟ニ供スヘキ旨ヲ命
ス

九日佐久良侯參内ス十一日議奏傳奏ト對話ヲナス
十五日佐久良侯京師ヲ辞シ去ント欲ス遽ニ止メラ
ル

廿日蠟漆紙茶ヲ多ク植ヘキ旨達アリ

三月

五日ハルリス江戸ニ来リ假条約調印ヲ促ス
十日蘭人長崎ヨリ江戸ニ至ル

十四日京師ニテ公卿八十八人議論ヲ奏ス
十七日都築駿河守自殺ス盖京師ノ形勢變スルヲ以
テナリ

廿日佐久良侯ニ外國處置ノ事尚又諸侯ノ衆議ヲ盡
スヘキ旨 敕命アリ

四月

五日佐久良侯京師ヲ發シ廿日江戸ニ歸ル

七日米船品川ニ入ルヘキ旨心得ニ達シアリハルリ
ス江戸ニ居ルニ付親ク對話スルヲ以テナリ

廿三日彦根侯大老タリ

廿四日佐久良侯邸ニテハルリス應接假条約調印ヲ

延フ

廿五日諸侯ヲ総登城セシメ外國處置ノ建議ヲ命ス
此頃諸有司近世ノ事情ヲ以テ交易ヲ許ス外ナキ旨
ヲ諸侯ニ游説スト云

五月

二日假条約調印ヲ七月廿七日迄延ル旨ハルリスニ
命ス

七日ハルリス下田ニ歸ル

八日米船品川ニ来ラサル旨心得ニ達アリ

十一日周防僧月性死ス

十八日名古屋屋侯水戸侯ニ其由セシ所ノ建議宜キヲ

失フニ付改ムヘキ旨ヲ命ス

六月

朔日佐久良侯等ニ大將軍養君ノ掛リヲ命ス

九日淺草並木町ニ幕府ノ奸吏ヲ誅スル旨張紙アリ

十二日養君ノ事ニ付 叡旨ヲ伺フ和哥山侯一橋公
ヲ立ルニ論大將軍決スル事能ハサレハナリ十九

日賢且長ノ者ヲ立ツヘシトノ 敕命江戸ニ至ル

十三日米船二艘下田ニ来ル

十六日魯船一艘下田ニ来ル十七日小柴沖ニ入り滯

泊ス

十七日ハルリス小柴沖ニ来リ咲船三十艘来ル旨ヲ

上言レ假条約調印ヲ促ス

十九日米人ニ假条約調印ヲ許ス

廿一日高松松江桑名三侯ニ京師守衛ヲ命レ高松松

江二侯大坂守衛ハ止ム津侯ニ 伊勢神宮守衛并

京師應援鳥取岡山高智三侯ニ大坂ヲ萩侯ニ兵庫

ヲ柳川侯ニ堺ヲ守衛セシム鳥取侯ノ品川岡山柳

川二侯ノ安房上総萩侯ノ相模守衛ハ止ム福井侯

ニ神奈川二本松侯ニ富津ノ守衛ヲ命ス

廿二日米人ニ假条約調印ヲ許ス不得已旨達アリ

廿三日佐久良侯上田侯老中ヲ免セララル掛川老侯鯖

江侯西尾侯老中タリ

廿四日名古屋屋侯水戸兩侯一橋公福井侯急ニ登城レ

假条約調印ヲ引キ返シ 教旨ヲ奉スヘキ旨建言

ヲナス

廿五日和哥山侯ヲ養君トナス

廿六日鯖江侯ニ命レ京師ニ行シム假条約調印ノ事

ヲ以テナリ

同日岡崎侯京都所司代ヲ免セララル小濱侯所司代タ

リ

廿七日假条約調印セル旨ヲ奏ス 主上逆鱗ト云

廿八日 朝廷大議アリ廿九日三家大老ヲ召ス七月

四日江戸ニ至ル

七月

二日諸侯総登城養君ヲ賀ス

四日鹿兒島藩戸塚静海佐賀藩伊東玄朴津山藩遠田長庵今治藩青木春岱ヲ奥醫師トナス

同日大將軍薨八月八日發喪温恭院ト諡ス十八日上野ニ葬ル

同日魯船小柴沖ヨリ品川ニ来ル十一日假条約ヲ結
十二日魯人登城ス十三日去ル

同日英船三艘品川ニ来ル十八日假条約ヲ結ヒ蒸氣船ヲ獻ス十九日去ル

五日名古屋屋侯福井侯ニ隱居慎水戸老侯ニ慎水戸侯一橋公ニ登城指扣ヲ命ス

六日蘭法醫術修行致シ不苦旨達アリ
七日和哥山藩伊東貫齋丸岡藩竹内玄同ヲ奥醫師トナス

八日新ニ外國奉行ヲ置ク
同日此日ヨリ十四日迄 主上御饌ヲ断テ六十餘州ノ神祇ヲ遙拜シ玉フ外國ノ事ヲ以テナリ

十日蘭人假条約ヲ結フ
十一日國家多事ヲ以テ琉球人來聘ヲ延ル旨鹿兒島侯ニ命ス

同日伏見奉行ニ京師取締ヲ命ス

十六日鹿兒島侯卒ス

廿二日諸有司事情ヲ泄ス事ヲ禁スル旨達アリ

廿八日高松守山長沼三侯并尾張竹腰兵部少輔紀伊

水野土佐守ニ水戸家ノ取締ヲ命ス

此頃ヨリ流行病アリ死スル者夥シ人之ヲコロリ病

ト名ク

八月

朔日水戸老侯ヲ他藩ニ幽セントス府内動搖ス

八日田安公後見タリ養君ノ幼ヲ以テナリ

同日 朝廷水戸侯ニ 救諭ヲ賜フ十七日江戸ニ至

ル老中屢水戸侯邸ニ出入ス

十三日佛船三艘品川ニ来ル九月三日假条約ヲ結ヒ

十六日去ル

廿三日平侯及水野筑後守永井玄蕃頭等ニ米國使節

ヲ命ス後之ヲ止ム

此月下旬ヨリ彗星西方ニ出ツ

九月

二日九条公閑白ヲ辞ス近衛公内覽タリ

三日鯖江侯江戸ヲ發シ十七日京師ニ至ル

四日處士梁川新十郎死ス

七日京師ニテ處士梅田源次郎ヲ捕フ後江戸獄中ニ

十八日江戸ニテ曾我權右衛門家來飯泉喜内ヲ捕フ
同日京師ニテ水戸藩鶴飼吉左衛門同幸吉ヲ捕フ
廿二日京師ニテ鷹司公臣小林民部權大輔ヲ捕フ此
後捕フ者多シ一々之ヲ記セス

廿七日江戸ニテ鹿兒島藩日下部伊三治ヲ捕フ後獄
中ニ死ス

此月尾張水戸士民動搖無願出府ス下総小金ニ集ル
者二千餘人アリ 救諭等ノ事ヲ以テナリ

十月

四日江戸ニテ古賀謹一郎家來藤森恭介ヲ捕フ
九日近衛公内覽ヲ辞ス

十一日堀織部正ヲシテ北國海岸ヲ巡視セシム明年
正月四日江戸ニ歸ル

十二日近衛公三條公職ヲ辞ス事ヲ請フ廿一日三條
公ノ請ヲ許ス

十九日飯泉記内ヲ始メ獄ニ下シ又ハ預ケトナス者
十七人アリ

廿一日九條公内覽旧ニ復ス
廿三日評定所一座ニ神奈川開港ノ調ヲ命ス

廿四日鯖江侯始テ 參内ヲナス
廿五日將軍 宣下アル旨京師ニテ達アリ

廿七日関宿侯老中ヲ免セラル

十一月

十二日此日ヨリ將軍 宣下ノ 敕使京師ヲ發ス
十六日清水法性院僧月照薩州海ニ死ス追捕來ルヲ
以テナリ庶兒島藩西郷吉兵衛遁テ國ニ入ル
廿四日宇和島侯ニ隱居ヲ命ス實ハ幕府ノ内意ヲ以
テ之ヲ請ナリ

十二月

廿六日土浦侯大坂城代ヲ免セラル龜山侯後職タリ
朔日將軍 宣下アリ
三日諸國巡見此迄ノ通り戌年迄延ル旨達アリ
五日京囚小林民部權大輔等十餘人ヲ江戸ニ下ス十

九日江戸ニ至ル

十八日ハルリス横濱ニ來リ廿一日下田ニ歸ル交易
場ノ未タ營築ナキヲ怒ルト云

十九日京囚詰問ヲ寺社奉行大日付等ノ五役ニ命ス
廿五日ヨリ詰問ヲ始ム

廿一日三條公淀ノ民家ニ退キ居ル

廿二日泉涌寺災アリ

廿五日京囚藤井但馬守等七人ヲ江戸ニ下ス正月九

日江戸ニ至ル

晦日鯖江侯參内ス暇ヲ賜ヒ且ツ真ノ太刀ヲ賜フ侯
之ヲ疑懼スト云フ

安政六年己未

正月

十二日英船一艘品川ニ来ル十七日掛川侯邸ニテ國書ヲ呈シ十九日去ル英國ニ使節ヲ發スルノ事等ナリト云

十三日長崎箱館横濱開港ニ付勝手ニ賣買スヘキ旨達アリ

十六日國中船印日ノ丸ノ旗艦綱ニ引揚ケ帆ハ白布幕府船ハ中黒ノ旗中ノ柱ニ上ケル旨達アリ

廿三日萩藩東条英庵ヲ外國奉行支配トナス
廿八日米船神奈川ニ来ル二月十七日去ル米國ニ發

スル使節ヲ促シ且交易場ノ事ヲ議スト云

二月

二日寺社奉行松山^{備中}侯等職ヲ免ス京囚詰問スヘカラサル旨ヲ論スルヲ以テナリト云

八日長崎ニテ蘭人ヨリ傳授ヲ受ルヲ止ル旨達アリ
十三日講武所調練國體ヲ失ハサル様調ヲ命ス

同日京囚連及ニテ捕フ者廿五人ヲ獄ニ下シ又八預ケ等トナス

十七日 粟田宮ヲ慎マシム

廿日鯖江侯京師ヲ發シ三月十二日江戸ニ歸ル

廿五日京囚春日讚岐守等十三人ヲ江戸ニ下ス三月

十日江戸ニ至ル

廿六日高智侯ニ隠居ヲ命ス幕府ノ内意ヲ以テ之ヲ請ナリ

三月

十七日近衛公鷹司公ヲ蟄居一条公久我公ヲ蟄居隠居万里小路公ヲ隠居トナス

廿三日米船浦賀ニ来リ咲船来リ暴ヲナスモ知レサル旨ヲ云フト云

四月

朔日蘭船一艘品川ニ来ル岡使ヲ長應寺ニ置キ六日去ル

十四日立田主水正自殺ス蓋シ世ヲ悲テナリ

廿六日水戸藩安島帶刀ヲ三田侯ニ預ク京囚連及ヲ以テ詰問スル所アルナリ

此月独船長崎ニ来リ交易ヲ請フ

五月

廿五日小判一分判ニ朱銀新鑄ノ旨達アリ

廿六日鷹司公父子近衛公三条公ヲ落飾セシム

同日咲船一艘品川ニ来ル六月九日十二日鯖江侯邸ニテ應接シ本条約ヲ結ヒ公使アルユツクヲ東

禪寺ニ置キ十四日去ル

廿八日六月ヨリ横濱長崎箱館ニテ米魯佛咲蘭五ヶ國

ノ交易ヲ許スニ付賣買勝手ノ旨達アリ
同日商民異状ノ衣服冠リ物ヲ禁スル旨達アリ
此月水戸動搖士民無願出府數千人アリ老侯ノ冤ニ
沈ムノ事ヲ以テナリ

六月

二日米魯等五國交易ニ付法律書兵書武鑑等賣買ヲ
禁スル旨達アリ
四日「ハルリス」公使トナリ善福寺ニ来リ居ル
廿三日鯖江侯邸ニテ「ハルリス」應接神奈川交易場ノ
事等議スルナリト云
此月ヨリ外國商船横濱ニ入ル者多シ

七月

朔日出羽男鹿島ニ魯人上陸薪ヲ採リ去ル
四日山王神田祭禮前年ノ如ク郭内ニ可入旨達アリ
八日魯船神奈川ニ来ル十八日ヨリ品川ニ入ル凡七
艘「ムラフ」ヨリ来ル廿三日本条約ヲ結ヒ八月九日
一艘ヲ留メテ去ル
十四日水戸領諸社神官廿餘人水戸兩侯ノ冤ヲ高松
侯ニ歎願ス
廿三日掛川侯老中ヲ免セラレ
廿七日横濱ニテ魯人三人斬ラル何人ノナス所ヲ知
ラス

八月

四日外國人歩行ノ時石ヲ擲ツ者ハ刑ニ處ス旨達アリ
 十二日佛船品川ニ來ル廿六日本條約ヲ結ヒ公使ハ
 ルクニヲ濟海寺ニ置テ去ル
 廿七日水戸老侯ニ國永蟄居水戸侯ニ指扣一橋公ニ
 隱居慎ヲ命シ水戸藩安島帶刀ヲ切腹茅根伊豫之
 介鶴飼吉左衛門ヲ死刑鶴飼幸吉ヲ獄門鮎澤伊大
 夫并鷹司公臣小林民部權大輔ヲ遠島其餘處士池
 内大學等ヲ追放等トナス
 廿八日掛川老侯ニ慎ヲ命ス

九月

此月 主上ニ五千兩獻納公卿一同ニ二万兩ヲ贈ル
 京師貧困ノ故ヲ以テナリト云九條公ニ千石ヲ加
 ハ廣橋公ニ白銀ヲ贈ル
 朔日水戸老侯水戸ニ赴ク
 十一日鶴殿民部少輔ヲ隱居慎黒川嘉平平山謙次郎
 平岡圓四郎ヲ免職指扣トナス
 十三日新見豐前守村垣淡路守小栗又一ニ米國使節
 ヲ命ス
 十六日龍野侯邸ニテハルリス應接使節等ノ事ト云
 廿三日手島甚四郎暗殺セラル蓋シ刑ヲ受ル者私怨

ヲ報スルナリト云

廿七日仙臺若松威岡秋田弘前庄内六侯ニ蝦夷地ヲ
割賜ヒ開墾セシム若松庄内ニ侯品川臺場ノ守衛
ハ止ム姫路侯ニ品川ニノ臺場ヲ小倉侯ニ同五ヲ
預ケ守衛セシム

十月

六日三条公淀ノ民家ニ薨ス

七日飯泉喜内并處士頼三樹三郎福井藩橋本左内ヲ
死刑大學寺内六物空萬武藏金原村百姓八郎ヲ遠
島其餘宮及公卿ノ諸臣等二十餘人ヲ追放等トナ
ス

十一日高智老侯ニ慎ヲ命ス

同日ハルリス登城拜禮ヲナス

十二日横濱ニテ支那人一人キラル何人ノナス所ヲ
知ラス

十六日佛人登城拜禮ヲナス

十七日日本丸災アリ大將軍西丸ニ移ル

廿七日川成侯ヲ五千石減シ隱居慎倅石見守ヲ寄合
石河土佐守ヲ隱居慎佐々木信濃守ヲ小普請トナ
ス

同日萩藩吉田寅次郎ヲ死刑鹿兒島藩日下部裕之進
阿部十次郎家来勝野森之介ヲ遠島其餘和哥山水

戸宇和島高松藩士等及ヒ藤森恭介等十三人ヲ追放等トナス

廿八日水戸藩山國喜八郎菽信之介等及鹿兒島高智姫路土浦鯖江龜山藩士等十二人ノ蟄居トナス親王公卿諸侯ノ慎諸大夫并諸藩士等ノ刑罰此条ニ至ル迄世之ヲ戊午己未ノ難ト稱ス皆憂世ノ誠ヲ以テ罪ヲ獲ル者ナリ

十一月

十四日龍野侯邸ニテ暎人應接清ヲ攻ル援兵等ノ事アルト云フ
十九日同上米人應接ス

十二月

廿三日忍侯養子民部大輔離縁水戸邸ニ歸ル

朔日本丸ノ災ヲ以テ諸侯ニ納金ヲ命ス
二日西尾侯ニ鞍鐙ヲ賜ヒ一万石村替ヲ命ス京囚ノ事ヲ司ル勞ヲ以テナリ
十八日水戸侯ニ去年八月ノ勅諭ヲ納ムヘキ旨ヲ命ス

廿一日龍野侯邸ニテ暎人應接ス
廿四日鯖江侯老中ヲ免セラル
廿八日京囚ヲ調ル諸有司ニ褒賞ヲ賜フ
同日外國銀錢銀座ノ極印ヲ以テ通用スヘキ旨達ア

廿九日龍野侯邸ニテ倭人應接馬三千匹ヲ乞フト云
此年倭佛ニテ清ヲ伐ツノ攻具ヲ修ム此夏清人倭人
ヲ襲ヒ之ヲ天津ニ敗ルヲ以テナリ

萬延元年庚申

正月

二日伊船横濱ニ來ル
六日倭ノ通辨官紀伊ノ人傳言江戸ニテ殺サル何人
ノナス所ヲ知ラス
十三日木村攝津守勝麟太郎等咸臨丸ヲ發シ米國ニ
赴ク

十五日平侯老中タリ

十八日新見豐前守等使節トシテ米船ニ附乘シ米國
ニ赴ク

廿日保字小判三兩一分二朱同一分判三分二朱正字
小判二兩二分三朱同一分判二分三朱ニ通用ノ旨
達アリ

廿八日西洋流調練并同大鼓稽古ヲ止ム旨達アリ

二月

四日朝鮮聘使來ル寅年來聘スヘキ旨ヲ府中對馬侯ニ
命ス

五日横濱ニテ倭人一人蘭人一人斬ラル何人ノナス

所ヲ知ラス

六日龍野侯邸ニテ喚入應接十八日同上異人ヲ暗殺ノ事ヲ以テナリト云

十八日水戸ニテ 勅諭ヲ納ル事ニ付藩士争鬪ス

同日魯人横濱ヨリ陸行シテ箱館ニ行ク

廿五日横濱ニテ夜廻ノ日本人異人ノ為ニ銃殺セラ

ル
廿七日大將軍前髪ヲ去ル

三月

三日水戸藩佐野竹之介鹿兒島藩有村治左衛門等十七人彦根侯ヲ外櫻田ニ撃テ之ヲ斬ル彦根侯喪ヲ

秘レ發セス

九日薩摩人水戸藩金子孫次郎等ヲ伊勢四日市ニテ

捕ヘ之ヲ幕府ニ出ス

十一日諸郭門番士卯年十月以前ニ復スル旨達アリ

十三日鹿兒島侯出府途中筑後ヨリ國ニ歸ル

十五日各國異人來居且ツ外櫻田ノ事ニ付諸侯警備

ヲナスヘキ旨大將軍親ヲ登城ノ諸侯ニ諭ス

廿三日水戸藩高橋多一郎同庄左衛門河崎孫四郎大

坂ニテ自殺山崎獵藏等三人ヲ捕フ

晦日彦根侯大老ヲ免セラ

閏三月

近代月表

卷上

一〇一

四二九

朔日萬延改元ノ達アリ

同日関宿侯再ヒ老中タリ

同日横濱商人龍野侯ニ駕籠訴異人ノ陰謀ヲ上言ス

五日判物ヲ諸侯ニ賜フ例ニ由ルナリ

六日神奈川守衛ノ諸侯ニ浮浪ノ徒横濱ニ侵入計リ

難キ旨達アリ

十一日松永半六大手前番所ニテ自殺ス蓋シ彦根侯ノ事ヲ懼ル、ナリト云

十七日水油蠟雜穀吳服糸等寡少ニ付府内ニ積ミ廻スヘキ旨達アリ

廿日軍艦ニテ横濱海上ヲ守衛スヘキ旨達アリ

廿九日平侯邸ニテ映入應接御殿山異人館等ノ事ナリト云フ

四月

三日徳島侯ニ命シテ品川ヲ守衛セシム

七日彦根侯喪ヲ發ス廿八日遺領ヲ世子ニ賜フ

廿八日西尾侯老中ヲ免セラル

五月

四日平侯邸ニテ映入應接御殿山異人館并品川ニ商館ヲ建ル等ノ事ナリト云

六日木村攝津守等米國ヨリ歸ル

廿四日葡船一艘品川ニ来ル六月二日十八日平侯邸

ニテ應接条約ヲ結ヒ十九日去ル

廿六日處士佐倉敷負島男也ヲ獄ニ下ス蓋シ京囚等ノ末餘ナリト云

同日笠間藩小野友五郎ニ命シテ大將軍ニ謁セシム

六月

四日和歌山侯附水野土佐守ヲ隱居慎トナス蓋シ大將軍ノ外戚タルヲ以テ陰ニ謀ル所アレハナリト云

十八日攘夷等重大事件ノ勅命アリ大久保大隅守奉シテ江戸ニ至リ七月朔日之ヲ呈ス

廿一日平侯邸ニテ嘆人應接ス

廿五日岡崎侯老中タリ

七月

四日米人登城拜禮ヲナス去年ノ式ヲ改ルナリト云

六日平侯邸ニテ米人應接十八日同斷

九日嘆人登城拜禮ヲナス

十一日種痘所ニテ種痘ヲナスヘキ旨達アリ

同日高松彦根郡山松江桑名五侯ニ京師ヲ嚴ニ守衛スヘキ旨并ニ淀高槻膳所篠山四侯ニ京師口口ノ

守衛ヲ命ス

十八日嘆人駿河ニ行キ廿六日富士山ニ登ル

廿日幸船品川ニ来ル廿九日平侯邸ニテ應接八月十

五日十八日同断条約ヲ結フ事ヲ許サス寺人歸ラ

ス
廿一日佛人登城拜禮ヲナス

廿六日独船品川ニ来ル

廿九日宮女姉小路京師ニ行ク 和宮降嫁ノ事ナリ

ト云

八月

三日琉球人来聘ノ事追テ達スヘキ旨ヲ鹿兒島侯ニ

命ス

十五日水戸老侯薨ス烈公ト諡ス廿六日永藝居ヲ宥

廿二日大野侯ニ北蝦夷ノ地ヲ割賜フ

廿七日水戸藩士三十七人鹿兒島侯邸ニ至リ意見ヲ

陳ス明年七月五日水戸侯邸ニ歸ル

此月英佛人清ノ北京ヲ陷ル

九月

四日名古屋老侯一橋公ノ慎ヲ宥シ對面等ハ扣ヘキ

旨ヲ命ス

七日掛川老侯本郷丹後守石河土佐守ノ慎ヲ宥ス

十三日小倉藩林洞海ヲ奥醫師トナス

十六日大垣侯ニ鞍鐙時服ヲ賜フ國政修ルヲ以ナリ

十八日平侯邸ニテ米人應接ス

廿日水戸侯ニ 勅諭ヲ納ルニ不及旨ヲ命ス
廿八日新見豊前守等米國ヨリ歸ル
□□日 祐宮儲君繼體立親王 宣下アリ

十月

四日平侯邸ニテ米人應接廿四日同斷借地等ノ事ア
ルト云フ
廿七日仙臺藩大槻俊齋ヲ種痘所頭取トナス

十一月

朔日 和宮大將軍ニ降嫁ノ旨達アリ
五日平侯ニ外國ノ事一人ニ任スル旨ヲ命ス
同日堀織部正自殺ス京師并外國ノ事處置總テ睽辰

スルヲ死ヲ以テ諫ムト云

六日軍船ノ帆白布又ハ帆中ニ印付勝手ノ旨達アリ
九日大將軍本丸ニ移ル
十三日平侯邸ニテ字人應接十八日同斷假条約ヲ結

十六日平侯邸ニテ佛人應接ス
十九日公卿一同ニ金一万五千兩ヲ贈ル 和宮降嫁
ヲ以テナリ

廿日平侯邸ニテ暎人應接ス
廿一日福山西尾尼崎新庄龜山郡山六侯ニ命シ各國
異人ヲ守衛セシム浮浪ノ徒異人ヲ襲フノ説アル

ヲ以テナリ後ニ屢更換アリ一々之ヲ記セス
廿九日龍野侯老中ヲ免セラル後隱居セリ

十二月

五日江戸ニテ米ノ通舟官ヒウスケン斬ラル何人ノ
ナス所ヲ知ラス

六日嘆人佛人江戸ヨリ横濱ニ行ク正月廿一日又江
戸ニ来ル此ヨリ時々出入シテ安居セス

十一日平侯邸ニテ米人應接ス廿七日同斷ヒウスケ
ンヲ暗殺并江戸大坂兵庫新瀉開港延期等ノ事ナ
リト云

十五日閑宿侯ニ一万石ヲ賜ヒ村上侯ニ一万石村替

ヲ命シ並ニ本丸普請掛リ一同ニ褒賞ヲ賜フ

廿八日龜山侯老中タリ

此月 主上山城國ノ民ニ黄金五十枚ヲ施シ五フ

文久元年辛酉

正月

四日宇國ノ条約伺ヒナキニ付 勅命アリ

九日平侯邸ニテ米人應接ス十六日廿五日同斷

十日佛船二艘品川ニ来ル

廿一日毎町自身番所ニ幟ヲ立ヘキ旨達アリ異人ノ

請フ所ナリト云

廿四日下総佐原ニテ浮浪ノ徒亂妨ヲナスノ旨届ケアリ

廿九日関東八州ニ浪人ヲ捕フヘキ旨達アリ

二月

三日平侯邸ニテ倭人應接ス十七日廿二日同斷此比ノ應接大抵公使居場兵庫又ハ對馬開港浮浪ノ徒ノ事等ナリト云

同日魯人對馬淺海浦ニ来リ船ヲ修理スル旨ヲ云

同日水戸侯ヨリ浪人ヲ捕フル旨申立ヲ心得ノ為メニ達アリ

七日倭船品川ニ来ル

九日魯船品川ニ来ル三月五日去ル

同日江戸ニテ水戸藩岡部三十郎ヲ捕フ

同日堺ニテ水戸藩住谷悌之介中島金平ヲ捕フ

廿三日米人登城ヲナス新年ヲ賀スルナリト云

廿八日文久改元ノ達アリ

廿九日平侯邸ニテ米人應接ス

同日物價騰貴ニ付麾下ノ士ニ金ヲ貸ス旨達アリ

此比下総邊ヨリ浮浪ノ徒攘夷ヲナスノ説アル旨屢

届ケアリ又上野赤城山ニモ屯集數百人アルト云

三月

朔日倭公使アルコツク遽ニ香港ニ行ク

四日魯人對馬益ヶ浦ニ来リ家ヲ造ル

十五日 和宮降嫁延引ノ旨達アリ

同日異状ノ頭巾ヲ禁スル旨達アリ

十七日江戸大雷

廿二日平侯ニ一万石村替ヲ命ス

廿三日大將軍本丸ニ移ル祝トシテ能狂言ヲナス

同日破戒ノ僧怪キ商賣ノ婦人等ヲ蝦夷ニ移ス旨達アリ

廿四日竹内下野守桑山左衛門尉京極兵庫ニ西洋諸

國ノ使節ヲ命ス

廿六日文武ヲ精勵并節儉ヲナスヘキ旨達アリ

廿七日山形藩鹽谷甲藏岩村藩若山社吉ニ命シ大將

軍ニ謁セシム

同日平侯邸ニテ米人應接ス西洋使節ノ事ナリト云

四月

十二日魯人對馬大船越ニテ小者安五郎ヲ銃殺ス十

三日同所ニ乱妨ヲナス

同日喚船一艘對馬府中浦ニ来リ十四日去ル

十九日小栗豊後守溝口八十五郎ヲシテ對馬ニ行シ

ム五月七日對馬ニ至リ十日魯人ト應接ヲナシ直

ニ返ル

同日 和宮内親王 宣下アリ

廿八日此日ヨリ咲船長門赤間関豊前門司浦等ニ帶泊諸所上陸五月十五日死人ヲ摘原村ニ葬リ去ル十月中ニ至リ持チ去ルト云

此月江戸大坂兵庫新瀉開港延期ノ事ヲ以テ魯咲佛等ノ各國ニ大將軍ノ手書ヲ贈ルト云

五月

口日咲人「アールコツク」兵庫ニ来ル東海道ヲ陸行シ廿七日江戸ニ至ル

十四日平侯邸ニテ咲人應接ス日本海測量ノ事ナリト云

十五日蘭人「シール」江戸ニ来リ雇トナリ赤羽根

接遇所ニ居ル四月中横濱ニ来リ居リシナリ

十九日水野筑後守ニ西洋使節ヲ命ス

廿八日水戸藩前水新八郎有賀半弥等十四人東禪寺ヲ襲ヒ咲人二人ヲ傷ク麾下并郡山侯西尾侯ノ兵ト闘ヒ互ニ死傷アリ

此月下旬ヨリ彗星西北ニ出ツ

六月

三日平侯邸ニテ蘭人應接ス

四日同上米人應接ス

五日十三日同上咲人應接ス大抵東禪寺ノ事ヲ以テリト云

十六日東禪寺ニ入ル殘黨ヲ捕フヘキ旨達アリ

同日水戸侯ニ命シ領内ヲ嚴ニ制セシム

十九日商民大船ヲ造ル勝手ノ旨達アリ

廿日小栗豊後守等對馬ヨリ歸リ至ル廿八日再ヒ行

ヘキ旨ヲ命ス行カス七月廿六日職ヲ免セラレ

同日名古屋侯和哥山侯ヲ登城セシメ水戸ノ事ヲ議

ス
廿一日溜誥諸侯ヲ登城セシメ水戸ノ事ヲ議ス

廿三日平侯邸ニテ佛人應接ス

廿四日新庄桑名松山州三侯ニ命シ神奈川異人館ヲ

守衛セシム

此月萩藩永井雅樂萩侯ノ命ヲ以テ京師ニ至リ開國

論ヲ奏ス 主上感賞然レトモ別ニ 勅スル旨ア

ルト云

此頃瑞人丁人横濱ニ来リ交易ヲ請フ

七月

二日倭人ニ日本海測量ヲ許スノ旨達アリ十一日倭

船横濱ヲ發シ諸州海岸ヲ測量ス

四日六日二度ニ倭船横濱ニ入ル「ホー」フ来ル

九日平侯邸ニテ米人應接ス居留地ノ事ナリト云

十日同上倭人應接ス對馬ニ滞留ノ魯人等ノ事ナリ

同日諸有司芝築地ノ海濱ヲ巡視ス異人館ヲ建ル地ヲ檢スルナリト云

十一日御殿山異人館ノ普請ヲ命ス十一月十七日ヨリ始ル

十六日御殿山普請成ル迄各國公使横濱ニ行ク此後時々往返アリ

廿日野々山丹後守小笠原攝津守ニ命シ對馬ニ行シム八月二日船ヲ發シ明年二月十三日江戸ニ歸ル

廿六日水戸藩金子孫次郎大関和七郎森五六郎岡部三十郎蓮田市五郎森山繁之介杉山弥一郎ヲ死刑トナス彦根侯ヲ擊ツヲ以テナリ此餘十人ハ既ニ

死セリ

八月

六日英人ヨリ五月中東禪寺守衛ノ徒ニ贈物アリ

十一日佐賀侯大砲三挺ヲ獻ス

十二日英國測量船伊勢志摩ニ来ラサル様ナスヘシトノ勅命アリ

十三日 和宮十月降嫁ノ旨達アリ

十四日平侯邸ニテ英人應接ス對馬ヲ魯人ニ貸タルヲ嘆人怒ル事ナリト云

廿日平侯邸ニテ佛人應接ス

廿一日水戸浪人船ニテ横濱ヲ襲フ説アルニ付心得

二達アリ

同日水野筑後守桑山左衛門尉西洋使節ヲ止メ松平石見守ニ之ヲ命ス

廿二日平侯邸ニテ米人應接ス

廿三日同上佛人應接ス大抵御殿山等ノ事ナリト云

廿四日五月中東禪寺守衛ノ諸侯ヨリ番卒ニ至迄褒賞ヲ賜フ

廿五日對馬滞留ノ魯人去ル

此月水戸ニテ浪人ヲ捕フル事嚴ナリ

九月

三日郭内外邸中調練ニ空砲ヲ發スルヲ許ス旨達アリ

リ

七日平侯邸ニテ蘭人應接ス「シ」ホルト國ニ歸ル事

等ナリト云

十日「シ」ホルトノ雇ヲ止ム旨同人ニ命ス

十一日平侯邸ニテ佛人應接ス西洋使節ノ事等ナリ

ト云

十六日同上英人應接ス

十八日同上米人應接ス

廿六日諸國川普請國役割ノ達アリ

十月

九日平侯邸ニテ蘭人應接ス

近代月表 卷上 文 一

十日福井侯神奈川横濱ノ守衛ヲ止メ品川ニ及六ノ
臺場ヲ預ケ姫路侯松代侯右臺場ノ守衛ヲ止メ神
奈川横濱ヲ守衛セシム

十三日萩侯不時出府江戸ニ至ル天下ノ為メニ建言
スル所アルト云

十六日平侯邸ニテ倭人應接ス此時倭人鞘ナキ槍ヲ
以テ警衛スル者ヲ率井タリ

廿日 和宮發輿十一月十五日江戸ニ至リ清水侯ノ
邸ニ入ル

廿三日異人ノ為メニ未夕開カサル港ニ異船来ラハ
事情ヲ問ヒ届ケ出ヘキ旨達アリ

廿四日種痘所ヲ西洋醫學所ト唱替フ旨達アリ
同日平侯邸ニテ米人應接ス倭人從卒ノ事等外種々
アルト云

十一月

五日米人登城國書ヲ呈ス大坂等延期ノ返書ナリト
云

廿日佐賀侯ニ隱居ヲ命ス
同日鹿兒島藩安田轍三綿ヲ製スル為メ桑枝ヲ買フ
旨達アリ

廿一日大將軍 勅使ヲ拜ス
同日ヒウスケンノ母ニ洋銀一万ヲ與フ

廿五日 勅使ヲ饗ス

廿六日平侯邸ニテ暎人應接ス兵庫開港等ノ事ナリ

ト云

廿七日同上佛人應接ス西洋使節等ノ事ナリト云

廿八日丁國ノ条約ヲ謝絶ス

廿九日平侯邸ニテ米人應接ス

此月鹿兒島侯ヨリ京師ニ兵ヲ出スノ密奏アリ

十二月

朔日諸品ノ直ヲ下ケヘキ旨達アリ

三日水野筑後守服部歸一ヲシテ小笠原島ヲ巡視セ

シム明年三月廿日歸ル

七日鹿兒島侯上邸焼亡ス蓋シ故アルト云

十一日 和宮清水邸ヨリ入城セリ

十三日「シ」ホルト横濱ヨリ長崎ニ行ク

廿二日竹内下野守等使節トシテ暎船ニ附衆西洋ニ

赴ク

廿三日平侯邸ニテ暎人應接ス

文久二年壬戌

正月

元日大和春日山社神鏡故ナクシテ三ツニ破裂ス宇

佐男山ニモ皆變アルト云

十四日宇都宮藩大橋頭藏等ヲ獄ニ下ス一橋公ニ事
ヲ舉ル事ヲ勸ルヲ以テナリト云
十五日下野人甲田頭三等六人平侯ヲ坂下門外ニ襲
フ疾疵ヲ蒙リ遁ル六人鬪死ス
廿日横濱佛人禮拜堂ニテ邪蘇教ノ說法ヲ聽ク者三
十二人ヲ捕フ後之ヲ宥ス

二月

五日萩侯登城天下ノ情勢ヲ陳シ老中ニ忠告ス
十一日 和宮誓禮規式アリ御臺下辨シ奉ル
十二日平侯邸ニテ倭人應接ス新公使ヨシニール
來ルナリト云十六日同斷

十八日公卿登城ヲナス京師ニ歸ルヲ以テナリ
同日久留米藩士十餘人亡命ス京師ニ至ルナリ
廿日倭人登城ヲナスヘキノ所遷ニ止ム此夕平侯邸
ニテ應接ス拜禮席ノ事ナリト云
廿二日平侯邸ニテ倭人應接ス
廿三日倭公使アルコソク國ニ歸ル淵邊德藏森山
多吉郎共ニ西洋ニ行ク兵庫等開港延期ノ事ナリ
ト云

三月

六日小濱侯ニ一萬石ヲ賜フ
十五日岡崎侯老中ヲ免セラル山形侯松山中備侯老中

近世月表 卷上 又ニ

タリ

十六日鹿兒島藩數十人亡命ス京師ニ至ルナリ

十八日岡藩十餘人亡命ス同上

十九日大將軍講武所ニテ武藝ヲ見ル

廿三日小濱藩杉田玄端ニ命シ大將軍ニ謁セシム

廿六日菽藩永井雅樂京師ニ至ル幕府ノ託ヲ以ナリ

ト云

廿七日平侯邸ニテ米人應接ス

廿八日米人登城ヲナスハルリス國ニ歸ルヲ以ナリ

ト云

此月九州諸藩士亡命シテ京師ニ至ル者多ク四月ニ

至リ大坂ニ會スル者數百人アリ

此項商船ヲ清ニ出ス九月歸ル

四月

七日平侯邸ニテ米人應接ス新公使ウエンチストル

來リハルリス國ニ歸ルノ事ナリト云

八日同上佛人應接ス

同日高智ニテ藩士數人用人吉田元吉ヲ殺シ亡命京

師ニ至ル

九日淺野伊賀守京師ヲ發シ十九日江戸ニ至リ京師

ノ形情ヲ陳ス

十日鹿兒島侯支族島津和泉精兵六百人ヲ以テ大坂

二至リ十五日京師ニ入ル

十一日平侯老中ヲ免セラル

十三日ハルリス米國ニ歸ル

十五日福岡侯江戸ニ來ル途中播磨ヨリ國ニ歸ル

十八日京師ヨリ老中ヲ召ス

十九日米人登城拜禮ヲナス

廿三日島津和泉人ヲシテ同藩異論ノ徒八人ヲ伏見ニ斬ル

廿五日名古屋老侯一橋公此迫ノ事悉皆宥シ登城ヲ

命ス福井老侯高智老侯ノ慎ヲ宥ス

廿八日菟侯世子京師ニ至ル

晦日 栗田宮并鷹司公近衛公一条公久我公万里小

路公等ノ慎ヲ宥ス

五月

三日若松侯ニ命シ政事ニ預ラシム

七日名古屋老侯一橋公福井老侯登城ヲナス福井老

侯ニ命シ政事ニ預ラシム

八日関宿侯ニ命シ京師ニ行シム

九日田安公後見ヲ免セラル

廿一日松山侯邸ニテ映人應接ス

廿二日諸侯ヲ總登城セシメ非常ノ節ニ付建言スヘキ旨大將軍親ヲ命ス

近世月表 卷上 文ニ

同日大原左衛門尉 勅使トシテ京師ヲ發ス島津三

郎和泉改名之ヲ衛シ六月七日江戸ニ至ル

廿三日龍野老侯再ヒ老中タリ

廿六日村上侯老中ヲ免セラレ

廿七日佛人登城ヲナス

同日政事寛永以前ニ復スル旨達アリ

廿八日郭中總テ以前ノ通り心得増番増供ヲ止ル旨

達アリ

廿九日松本藩伊藤軍兵衛東禪寺ニテ喚人二人ヲ殺

シ自殺ス

六月

朔日大將軍入朝スヘキ旨内意達アリ

同日九条公関白ヲ免セラレ近衛公関白タリ

二日関宿侯老中ヲ免セラレ

五日宇治茶誥通行濟届ケニ不及且ツ右ニ付無益ノ

事ヲ省ク旨達アリ

七日款矣江戸ヲ發シ七月二日京師ニ至ル

八日軍艦ヲ以テ志摩伊勢尾張海ノ測量ヲナス旨達

アリ

十日 勅使大原左衛門尉登城ヲナス十三日十八日

廿九日同斷一橋公等ヲ用ヘ大改革ヲナス事件ナ

リト云

十三日松山侯邸ニテ嘆入應接ス東禪寺等ノ事ナリ
ト云

十四日蘭人江戸ヨリ横濱ニ行ク十五日嘆人米人ト
六日佛人同斷暗殺ヲ懼ル、ナリト云

十五日普請奉行小普請奉行ヲ廢ス旨達アリ
十八日内田恒次郎澤太郎左衛門伊東玄伯林研海ヲ

シテ留學トシテ蘭國ニ行シム
晦日小濱侯所司代ヲ免セラル宮津侯所司代タリ
此比麻疹流行死者夥シ

七月

朔日大原左衛門尉登城ヲナス大將軍答 勅ヲナセ

六日一橋公ニ再相續ヲ命シ且ツ後見タリ

同日諸侯船路往來勝手ノ旨達アリ
同日宇都宮藩大橋順藏ヲ主人ニ預ケトナス九日死

ス
九日福井老侯政事總裁タリ十月廿八日用部屋ニ入
ラシム

十五日夜星飛コト雨ノ如シ

十六日款侯父子學修院ニテ公武一和ノ事ヲ建論ス
廿日歛肥藩安井仲平ニ命シテ大將軍ニ謁セシム

廿一日京師ニテ諸藩亡命徒九条公臣島田左兵衛權

新刊 文二

大夫ヲ斬リ廿三日首ヲ四条河原ニ梟ス

廿三日松山侯邸ニテ啖人應接ス廿七日同斷世態變
革ニ付テノ事ナリト云

此月江戸大坂兵庫新潟開港延期ヲ啖佛等諾スト云
同下旬ヨリ彗星西北ニ出ツ

八月

三日鹿兒島侯ニ藩士堀次郎ヲ國法ニテ刑スヘキ旨
ヲ命ス

九日故三条公ニ右大臣ヲ贈ル

十二日大原左衛門尉登城ヲナス

十六日大原左衛門尉ヲ濱殿ニ饗ス

同日閑宿侯加増一万石ヲ減シ平侯村替地ヲ復舊シ

共ニ隱居慎ヲ命ス

十八日萩侯世子江戸ニ至リ廿四日登城 教書ヲ呈

ス水戸烈公ニ官ヲ贈リ戊午以來罪ヲ得ル者ヲ許

ス等ノ事件ナリト云

同日熊本侯弟亮之介京師ニ至ル

廿日千種小將岩倉中將富小路中務大輔ニ藝居落飾

ヲ命ス

廿一日中山公正親町三条公ニ指扣ヲ命ス

同日足守藩緒方洪庵ヲ奥醫師トナス

同日島津三郎江戸ヲ發ス從士生麥村ニテ啖人四人

ヲ斬ル閏八月七日京師ニ至ル

廿二日大原左衛門尉江戸ヲ發シ品川ニ止ル廿四日

品川ヲ發シ閏八月六日京師ニ歸ル

同日松山侯邸ニテ米人蘭人應接ス生麥村ノ事ナリ

ト云

同日仙臺藩石川撫所ヲ奥醫師トナス

廿三日新見伊勢守ニ命シ大將軍ニ代テ水戸烈公ノ

墓ヲ拜セシム

廿四日宮津侯所司代ヲ免セラル長岡侯所司代タリ

廿五日久我公ニ蟄居落飾ヲ命ス

同日高智侯京師ニ至ル

廿八日萩藩来原良藏異人ヲ斬ラント欲シ横濱ニ行

キ同藩ノ為ニ捕ハレ自殺ス

廿九日松山侯邸ニテ米人蘭人應接ス晦日晝前同斷

晝後暎人應接ス皆生麥村ノ事ナリト云

此頃ヨリ屢諸侯ニ内 勅ヲ賜フ

閏八月

朔日若松侯ニ京都守護職ヲ命ス九日役地五万石ヲ

賜フ

二日山形侯邸ニテ佛人應接ス三日同斷生麥村ノ事

ナリト云

三日彦根侯ニ藩士永野主膳ヲ嚴刑ニ處スヘキ旨ヲ

新編 徳川実録 卷之三十一 文二

命ス八月廿七日侯既ニ主膳ニ死ヲ賜フト云

五日水戸烈公ニ從二位大納言ヲ贈ル

八日宇都宮侯 山陵ヲ脩メンコトヲ請フ十四日之

ヲ許ス

同日東禪寺ニテ殺サレタル嘆人親族ニ洋銀三千ヲ

與フ

九日魯人登城ヲナシ國書ヲ呈ス使節ノ答謝大坂等

ノ延期ヲ諾スル事ナリト云

十四日諸侯ノ江戸ニ交代スルヲ緩ル旨内意達アリ

十五日國威ヲ更張スルニ付建白スヘキ旨達アリ

同日小濱侯一万石ヲ減シ隱居慎ヲ命ス

十七日諸國関所ヲ鉄砲ヲ持テ通行勝手ノ旨達アリ

廿日彦根侯京都守護ヲ免セラレ

同日京師ニテ諸藩亡命徒其徒處士本間精一郎ヲ殺

シ四条河原ニ梟ス

廿一日山形侯邸ニテ米人應接ス

廿二日大改革ヲナシ諸侯ノ交代ヲ緩メ妻女ヲ國ニ

就シメ衣服并ニ從僕省略ノ旨達アリ

同日京師ニテ諸藩亡命徒九条公臣宇野玄蕃ヲ殺シ

松原通ニ梟ス

廿三日島津三郎京ヲ發シ國ニ歸ル

廿九日京師ニテ諸藩亡命徒目明シ文言ヲ殺シ三條

近代月表 卷上 二十九

橋近クノ河中ニ梟ス

九月

朔日小者難儀ナキ様處置スヘキ旨達アリ

三日九条公ヲ落飾セシム

四日高智侯ニ同老侯ト替ルヘキ旨 勅命アリ

六日龍野侯老中ヲ免セラレ

同日講武所ニテ弓術ハ以後大將軍見サル旨達アリ

七日明年二月大將軍入朝スルノ旨達アリ

同日名古屋老侯從二位大納言タリ

八日攘夷別 勅使ヲ関東ニ下スノ 勅命アリ晦日

三条公姉小路公ニ命ス

十一日唐津侯世子老中格タリ

十二日一橋公ニ命シ京師ニ行シム十月朔日之ヲ止

ム

廿三日諸藩亡命徒石部ニテ渡邊金三郎森孫六大河

原十藏ヲ殺シ明日其首ヲ粟田口ニ梟ス

廿四日松山侯邸ニテ米人應接ス

廿五日九条公父子久我公千種自觀岩倉左山富小路

敲雲ヲ洛外ニ居住セシム

此月川崎ヨリ程ヶ谷迄五町ニ一ヶ所宛見張所ヲ作

ル異人ノ請フ所ナリト云

十月

朔日米船一艘下總銚子ニ漂シ来ル

六日外様諸侯大將軍入朝ニ從フニ不及勝手ニ京師ニ至ルヘキ旨達アリ

九日濱松侯老中タリ

十日大將軍巢鴨邊ニ微行ヲナス

十一日京師ニテ諸藩亡命徒商人壽三郎半兵衛ヲ縛シ二条河原ニ晒ス

十二日勅使三条公姉小路公京師ヲ發ス高智侯之ヲ衛シ廿八日江戸ニ至ル

十三日山形侯邸ニテ嘆人應接ス生麥村ノ事等ナリト云

同日名古屋和哥山水戸三侯ニ端反笠ヲ賜フ

十四日久留米侯京師ニ至ル

十五日鳥取侯廣島侯京師ニ至ル

同日徳島侯ニ屢登城建言スヘキ旨ヲ命ス

十八日芳野後醍醐天皇ノ廟震動破裂ス

同日大將軍入朝ノ諸事ヲ格外ニ省ク旨並ニ大將軍

通行ノ節窓戸ヲ閉ルニ不及旨達アリ

廿一日鳥取侯京師ヲ發シ十一月五日江戸ニ至ル

勅使ヲ輔クヘキ旨勅命ヲ以ナリ

廿三日處士吉田真之介ニ命シ大將軍ニ謁セシム

廿五日此日ヨリ大將軍麻疹ヲ患フ

行代... 文二

廿七日岡侯伏見ニ至ル諸藩亡命徒之ヲ伐ントス侯
大坂ニ返ル 勅使ヲ輕蔑スルヲ以テナリト云

十一月

朔日一橋公中納言タリ

七日鹿兒島侯徳島侯京師ニ至ル

同日彦根藩加藤吉大夫濱松侯邸ニ至リ自殺シテ歎

願ヲナス京師守護ヲ止メ村替等ノ事ナリト云

十二日故鹿兒島侯ニ從三位權中納言ヲ贈ル

同日萩高智藩士神奈川ニ集リ横濱ヲ焼ントス不果

十三日西洋使節ヨリ佛軍船大坂ニ入ルヘキ歎ヲ上

言ス

十五日京師ニテ諸藩亡命徒彦根藩永野主膳ノ妾ヲ

縛シ三条河原ニ晒ス

十六日同上金閣寺内多田帶刀ヲ殺シ粟田口ニ梟ス

廿日彦根侯十萬石ヲ減シ村上侯村替地舊ニ復シ鯖

江侯一萬石ヲ減シ隱居慎小濱老侯佐久良老侯関

宿老侯平老侯ヲ蟄居且ツ関宿侯ハ一萬石平侯ハ

二萬石ヲ減ス小笠原長門守ヲ隱居藥師寺靜山ノ

隱居料及俸備中守ノ七百石ヲ減スル旨ヲ命ス

廿一日津侯京師ニ至ル

廿二日御臺ヲ復タ 和宮ト稱シ奉ル

廿三日高松老侯ヲ蟄居龍野老侯ヲ慎西尾侯ヲ村替

地復舊隱居宮津侯沼津老侯淺野伊賀守ヲ指扣松
 平出雲守大久保越中守松平式部少輔駒井山城守
 黒川備中守岡部土佐守池田播磨守ヲ免職指扣久
 貝遠江守ヲ指扣且ツ俸相模守二千石ヲ減ス石谷
 長門守ヲ隱居指扣トナス旨ヲ命ス戊午京囚ノ事
 ヲ以テナリ

廿七日 勅使三条公等登城ヲナス

十二月

三日慶安軍役ノ半兵賦ヲ出スヘキ旨達アリ

四日三条公等ヲ城中ニ饗ス

同日鳥取侯江戸ヲ發シ十八日京師ニ至ル

五日三条公等登城ヲナス大將軍答 勅ヲナセリ

同日佐賀老侯京師ニ至ル

七日三条公等江戸ヲ發ス萩侯世子之ヲ衛シ廿三日

京師ニ歸ル

九日若松侯江戸ヲ發シ京師ニ至ル

十一日竹内下野守等西洋ヨリ歸ル

十二日歛肥藩安井仲平山形藩鹽谷甲藏田中藩芳野

立藏ヲ儒者トナス松山^{備中}藩山田安五郎上ノ山藩

金子與三郎ニ命シ大將軍ニ謁セシム

十三日御殿山異人館焼亡ス蓋シ諸藩亡命徒ノナス

所ナリト云

同日攘夷ノ 勅命ニ付諸侯ニ建言ヲ命ス

十五日水戸侯ニ戊午ノ年ノ 勅諭ヲ承奉スヘキ旨

ヲ命シ又其旨ヲ諸侯心得ノ為メ達アリ

十六日山形侯邸ニテ佛人應接ス

十七日一橋公ヲシテ大坂ヲ巡視セシム正月六日京

師ニ至ル水戸藩武田耕雲齋ニ命シ後行セシム

同日唐津侯世子船ニテ大坂ニ赴ク

十八日徳島侯ニ陸軍總帥ヲ命ス正月廿三日免ス

廿一日江戸ニテ諸藩亡命徒熊本藩横井平四郎ヲ斬

ラントス平四郎遁ル 廿二日同上塙次郎ヲ斬ル明日日本橋ニ張札ヲナシ

廢帝ノ調ヲナスニ付天誅ヲ加ル旨ヲ云

同日壬生ニテ藩士十六人家老鳥井志摩ヲ殺ス

廿九日鹿兒島藩川本幸民杉田玄端津山藩箕作玩甫

ヲ洋書調所教授役トナス

同日大將軍明年海路ニテ入朝ヲナス旨達アリ後又

陸行トナス

此月米國大ニ乱ル

文久三年癸亥

正月

五日魯人喫佛兵ヲ擧ケ日本ニ行ク旨ヲ忠告ス

近世月表 卷上

六日佐賀老侯江戸ニ至ル八日命シテ大將軍文武ノ

事ニ預ラシム

七日佛船横濱ニ来リ後船来ル旨ヲ云

同日名古屋老侯京師ニ至ル

十日高智老侯船ニテ江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

十三日江戸ニテ諸藩亡命徒高槻藩宇野八郎ヲ斬ル

十五日熊本侯京師ニ至ル

廿日岡山侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

廿二日福井老侯船ニテ江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

同日大坂ニテ諸藩亡命徒處士池内大學ヲ殺シ耳一

ツヲ中山公ニ一ツヲ三条公ニ呈ス

□日秋田侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

廿九日徳島侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

二月

三日此日ヨリ十二日迄ニ喚船八艘横濱ニ来ル

五日綾小路侍従親族及諸藩士ニ會スルコトヲ禁ス

六日萩侯國ニテ藩士永井雅樂ヲ殺ス

十一日熊本藩裏武兵衛萩藩久坂玄瑞高智藩武市半

平太 朝廷へ攘夷ノ期限ヲ促ス

十二日大將軍留京十日ノ旨 勅命アリ

十三日大原左衛門尉裏辻侍従ヲ禁足セシム

同日大將軍江戸ヲ發シ東海道ヲ經入朝ス山形侯松

山侯後ノ三月四日京師ニ至ル

同日 粟田宮還俗中川宮ト稱シ奉ル

十六日水戸侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

十八日仙臺侯同上

同日留京ノ諸侯學修院ニテ建言スヘキ旨 勅命テ

リ

十九日英船一艘品川ニ来リ書翰ヲ出シ廿日ノ間ニ

回答センコトヲ請フ生麥村ノ事等ニ付贖金ノ事

ナリト云

廿二日京師ニテ諸藩士等持院ニ至リ足利尊氏等ノ

木像首ヲ斬リ三條河原ニ梟ス廿七日若松侯右藩

士ヲ捕フ

廿三日金澤侯京師ニ至ル

廿六日京師ニテ諸藩亡命徒千種自觀臣賀川肇ヲ殺

シ手ヲ一ツ宛岩倉左山千種自觀ニ首ヲ一橋公ニ

呈ス

三月

朔日和哥山侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

三日大將軍ニ將軍職元ノ如ク政事委任ノ旨 勅命

アリ

五日關八州諸侯ニ英人情意不可測ヲ以テ兵備ヲ十

スヘキ旨達アリ

六日諸侯並麾下布衣以上ヲ總登城セシメ死力ヲ出シ
シ英人ヲ防キ戰フヘキ旨達アリ

七日上ノ山関宿亀田鯖江等ノ七侯ニ命シ御殿山濱
殿越中島ヲ守衛セシム

同日英國ヘノ回答十五日ヲ延フ此時江戸動搖諸侯
遽ニ妻女ヲ國ニ移ス者多シ

同日大將軍始テ參内セリ

十一日 主上賀茂ニ行幸大將軍及諸侯之ニ從フ

同日大將軍留京十日ノ旨ノ所人心歸嚮ヲ處置ノ上
歸府スヘキ旨 勅命アリ

十四日島津三郎京師ニ至リ十八日國ニ歸ル

同日万石以下妻女ヲ知行所ニ移ス勝手ノ旨達アリ

十六日鳥取侯國ニ歸ル十七日萩侯世子兵庫ニ行ク
其餘諸侯國ニ歸ル者多シ一々之ヲ記セス

十七日英船ノ事ニ付廿一日大將軍歸府ノ旨達アリ

同日英人ヲ大坂ニ召シ應接ヲナシ大將軍親ラ京師
守衛ノ指揮ヲナスヘキ旨 勅命アリ大將軍京師

ニ留ル

十八日攘夷并親兵貢獻ノ旨達アリ

十九日英國ヘ回答又三十日ヲ延フ此比江戸横濱等
屢動搖シ人民四方ニ逃遁ス

廿一日横濱ニテ石工民藏佛人ニ殺サル

同日福井老侯不請シテ京師ヨリ國ニ歸ル廿五日總
裁職ヲ免シ逼塞ヲ命ス

廿五日近衛公内覽ヲ免ス

同日唐津侯世子ニ倭國へ回答ノ事ヲ委任ス四月六

日江戸ニ至ル

同日水戸侯ニ江戸守衛及大將軍留京中目代ヲ命ス

四月十一日江戸ニ至ル

廿九日江戸ニテ廻リ方手先半七兄文介斬ラル何人

ノナス所ヲ知ラス

此比浮浪ノ徒ヲ集メ新徴組ト名付ケ四月廿一日新

ニ之ヲ置ク

四月

二日此日ヨリ浮浪徒江戸市中諸處ニ攘夷ヲ以テ軍
備金ヲ命ス

三日萩侯ニ對馬ノ守衛ヲ命シ兵庫西宮ノ守衛ハ止

ム久留米津山岡三侯ニ兵庫西宮ノ守衛ヲ命ス

四日秋田小田原庄内高崎中村五侯ニ市中巡視ヲ命

ス浮浪ノ徒ノ事ヲ以テナリ

六日米人宿所善福寺焼亡ス自ラ火ヲ失フナリ

七日鳥取侯復京師ニ至ル

十日新徴組市中ヲ暴スル同組二人ヲ斬リ首ヲ兩國

橋ニ梟ス

十一日 主上八幡ニ行幸大將軍病ヲ以テ役ハス
十三日 江戸ニテ處士清河八郎斬ラル何人ノナス所
ヲ知ラス或云幕府命シテ之ヲ暗殺スト

十五日 巡市ノ諸侯ニ命シ新徴組二十八人ヲ捕フ横
濱ヲ襲フコトヲ患テナリト云

十七日 福山侯ニ八幡口口侯ニ山崎ノ守衛ヲ命ス

同日 三条大橋高札場ニ大將軍及一橋公ヲ始メ諸有
司ヲ天誅ニ行フヘキ旨張紙アリ

十九日 大將軍歸府後外國拒絶ノ旨兩番頭ニ達アリ
廿一日 大將軍大坂ヲ巡視ス五月十一日京師ニ歸ル
同日 外國拒絶期限五月十日ノ旨 勅命アリ

同日 名古屋老侯ニ大將軍ヲ輔助スヘキ旨 勅命アリ

同日 品川ヨリ藤澤迄道ヲ改造ル旨達アリ

同日 生麥村一事喚人ト曲直ヲ議シ扶助金ヲ與ヘ且
ツ鎖港ヲ議スルニ付心得ヘキ旨達アリ

同日 名古屋屋侯水戸侯ヨリ不得止喚人ニ金ヲ與フル
ノ旨ヲ奏ス五月九日右ハ違 勅ニ付事實ヲ奏ス
ヘキ旨 勅命アリ

廿二日 一橋公京師ヲ發シ五月八日江戸ニ至ル

廿七日 掛川老侯再老中タリ五月十四日免セラレ

五月

三日名古屋侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク途中ヨリ國ニ
歸ル

四日今夕直ニ兵端ヲ開クモ計リ難キ旨達アリ

同日此日ヨリ六日迄老中一人モ登城スル者ナシ

八日三田高輪品川ヲ燒キ拂フ用意ヲナスヘキ旨達

アリ

同日濱松侯邸及ヒ日本橋ニ要路十八侯ヲ天誅ニ行
フヘキ旨張紙アリ

九日洋銀四十五萬元ノ金ヲ英人ニ贈ル

同日唐津侯世子長崎箱館濱三港拒絶ノ書ヲ英佛
等七ヶ國ノ人ニ贈ル七國官吏各答書ヲ出ス

同日有司總登城鎖港ノ事ヲ議ス

十日長門人下関ニテ米國ノ商船ヲ砲撃ス

十二日濱殿ニテ大砲ヲ十度發セハ異變ト心得ヘキ
旨達アリ

同日新兩替町ニ水戸侯及老中等金ヲ英人ニ與ル者
ヲ天誅ニ行フヘキ旨張紙アリ

十九日唐津侯世子水野癡雲井上信濃守等船ニテ大
坂ニ赴ク歩兵千餘人之ニ從フ晦日大坂ニ至ル

廿日京師ニテ姉小路公斬ラル何人ノナス所ヲ知ラ
ス

同日諸藩亡命徒處士家里新太郎ヲ殺シ首ヲ三條河

原ニ梟ス

廿一日學脩院表門扉ニ三糸公ヲ天誅ニ行フヘキ旨
張紙アリ

廿三日長門人下関ニテ佛船ヲ砲撃ス

廿五日鹿兒島藩仁禮源之允田中權平等ヲ捕フ姉小
路公ヲ斬ルヲ疑フナリト云

廿六日長門人下関ニテ蘭船ト戦フ互ニ死傷アリ
此比一橋公屢後見ヲ辞ス

六月

朔日長門人下関ニテ米船ト戦フ長門船二艘沈没互
ニ死傷アリ

同日萩侯父子ノ内一人ヲ召ス旨 勅命アリ

三日大將軍參 内ス暇ヲ賜フ九日京師ヲ發シ大坂
ニ赴キ十一日船ニテ大坂ヲ發シ十六日江戸ニ歸
ル

同日西丸災アリ

五日中川宮攘夷ノ先鋒タラン事ヲ請フ

同日長門人長府ニテ佛船ト戦フ長人敗走ス
八日唐津侯世子ヲ嚴罰スヘキ旨 勅命アリ

十日唐津侯世子老中格ヲ免セラレ大坂城代ニ預ケ
トナス七月十四日江戸ニ歸リ慎ム水野癡雲井上
信濃守向山榮五郎ヲ免職慎トナス

十四日鳥取藩士大坂ニテ英船ヲ砲撃ス

十六日監軍 勅使正親町少將ヲ長門ニ下ス九月廿

六日京師ニ歸ル

同日東北ノ諸侯十四侯ヲ江戸ニ来ラシム蓋攘夷如

何トノ事ヲ議スルナリト云

十八日姫路侯老中上空タリ

廿一日名古屋老侯京師ヨリ國ニ歸ル

廿三日神奈川ニテ長門ニ行シ英船ノ水先案内重兵

衛ヲ殺シ小安村ニ梟ス何人ノナス所ヲ知ラス

廿五日攘夷期限等不分明ノ旨并ニ若松侯ニ右周旋

スヘキ旨 勅命アリ小栗下總守侯ニ代リ七月十

四日江戸ニ至ル

廿六日京師ニテ諸藩亡命徒徳島藩安藝田面ヲ殺ス

廿七日日本橋ニ松前侯及平岡圓四郎ノ罪ヲ問フ張

紙アリ

七月

二日此日ヨリ四日迄薩摩人鹿兒島ニテ英船ト戦フ

英人敗走ス十二日 叡感ノ旨 勅命アリ

五日丸岡侯老中タリ

十二日長門ヨリ衆兵ヲ京師ニ出ス

同日 主上親征ニ付島津三郎ヲ召ス 勅命アリ

十四日中根一之允船ニテ長門ニ使ス牧野左近村上

求馬同ク九州ニ赴ク途ニ淡路岩屋ニテ發砲ニ逢
フ後ニ德島藩長坂貞治屠腹ヲナスト云

十五日蛸薬師弁才天ニ幕府奸吏及外國品賣買ノ商
賈ヲ誅ストノ張紙アリ

十七日監察 勅使東園中將四条侍從ヲ紀伊播磨ニ
下ス

同日岡山侯復京師ニ至ル

十九日京師ニテ諸藩亡命徒徳大寺公臣滋賀右馬大
允ヲ殺ス

廿日 中川宮ニ攘夷ヲ拒ムニ付推參可致旨張紙アリ

廿二日中根一之允等長門ニ至ル八月十三日同所ニ
テ鈴木八五郎ト共ニ殺サル

廿三日京師ニテ諸藩亡命徒商人八幡屋卯兵衛ヲ殺
シ三条扎場ニ梟シ外ニ四人誅スヘキ旨ヲ述フ廿

五日商人下人歎願書ヲ同所ニ張ル廿九日室町姉
小路町米戸ニ歎願聞届ノ旨張紙アリ

廿四日松平式部大輔ニ攘夷ヲ促ス 勅命アリ
同日小倉藩河野四郎柳生兵衛長門ニテ自殺ス中根

一之允ト同行ヲ以テナリト云
廿六日京師ニテ諸藩亡命徒□□大藤幽叟ヲ殺シ三

条扎場ニ梟ス

廿七日京師ニテ諸藩亡命徒高臺寺ヲ燒ク福井老侯宿スル故ヲ以ナリト云

晦日 主上若松藩ノ練兵ヲ日ノ門外ニ覽ル

八月

七日宇人品川海ヲ測量ス

八日 中川宮ニ鎮西將軍ヲ命スルノ 勅命内意アリ

十二日有司ヲ總登城セシメ鎖港ノ應接ヲナスヘキ旨ヲ大將軍親ラ命ス

同日京師ニテ諸藩亡命徒外國品賣買ノ商人大和屋庄兵衛ノ土藏ヲ燒ク

十三日大和ニ行幸シ 神武天皇ノ陵ヲ拜シ玉ヒ春日山ニテ 親征軍議有之旨 勅命アリ

十四日鳥取侯岡山侯米澤侯徳島侯世子參 内親征ヲ止ル事ヲ請フ不聽

十五日江戸ニテ浮浪ノ徒處士鈴木重胤ヲ殺ス

同日同上萩藩士幕府ノ間者ヲ斬ル

同日小倉侯品川五ノ臺場守衛ヲ止ノ松江侯ニ命シテ守衛セシム

十六日名古屋老侯ニ大坂守衛ノ指揮ヲ命ス

十七日京師ニテ鳥取侯ヲ天誅ニ行フヘキノ所父烈公ニ對シ首ヲ預ケ置ク旨倉橋□□門ニ張紙アリ

同日同上鳥取藩士二十二人同藩黒部權之介等四人ヲ殺ス

同日諸藩亡命徒大和五条ヲ襲ヒ鈴木源内等五人ヲ殺シ櫻井寺門前ニ梟ス

十八日大和行幸ヲ止ム旨 勅命アリ

同日長門人京師ヲ去ルヘキ旨 勅命アリ三条公西

三条公東久世少將壬生脩理權大夫四条侍從錦小路右馬頭澤主水正共ニ去ル

同日一橋公老中ト江戸近海ヲ巡視ス

十九日迅速攘夷ヲナスヘキ旨 勅命アリ

廿日幕府ノ示命ヲ待タス速ニ攘夷ヲナスヘキ旨

勅命アリ

同日牧野左近村上求馬江戸ニ歸ル

廿一日祇園山門ニ若松侯ヲ天誅ニ行フヘキ旨張紙アリ

同日麾下士金輪貫ノ笠ヲ用ヘキ旨達アリ

廿五日和哥山侯京師ニ至ル

同日豊岡大藏卿滋野井中将橋本少將万里小路弁鳥丸侍從東園中将ニ差扣ヲ命シ三条公等七卿ノ官位ヲ止ム

同日一揆ヲ嚴ニ討フヘキ旨 勅命アリ即チ諸藩亡命徒ヲ討スルナリ

同日和哥山津彦根郡山四侯ニ命シ諸藩亡命徒ヲ追討セシム

廿六日京師ニ居ル諸侯及重臣ヲ召シ近來信偽不分明ノ勅命アレトモ十八日ヨリハ真ニ朕カ意ナリト主上親ラ諭シ玉フ

同日諸藩亡命徒高取ヲ攻メ敗走天ノ川ニ集ル

同日忍白川新生三侯ニ命シ京師ヲ守護セシム忍侯品川三ノ臺場守衛ハ止メ高崎侯ニ命シ守衛セシム

廿七日徳島侯品川守衛ヲ止メ水戸侯ニ命シ守衛セシム

同日姫路侯船ニテ京師ニ赴ク

九月

朔日日本橋ニ外國品賣買ノ商賈ヲ天誅ニ行フヘキ旨張紙アリ二日室町三日馬喰町ニ同斷

同日大宰帥熾仁親王ニ攘夷別勅使トシテ関東ニ行クヘキ旨勅命アリ

二日江戸ヶ谷村ニテ佛人一人斬ラル何人ノナス所ヲ知ラス

同日蠻書調所ヲ開成所ト唱替フ旨達アリ

三日長門人ヨリ中根一之允同行セシ人ト船トヲ返ス

五日龜山侯老中ヲ免セラル

六日親兵貢獻ヲ止ル旨 勅命アリ

八日川越侯ニ命シ政事ニ預ラシム

同日諸藩士等堂上方ニ出入スルヲ禁スル旨達アリ

九日彦根侯ノ兵吉野ヨリ進ミ各處小戰其後和哥山

津郡山侯ノ兵各處ニテ諸藩亡命ノ徒ヲ捕フ

十三日名古屋侯ニ隱居ヲ命ス

同日長岡侯老中タリ

十四日軍艦所ニテ米人蘭人應接ス三港拒絶ノ書ヲ

引返シ横濱鎖港ヲ命ス 同日八月十八日京師ノ變動ヲ以テ鎖港猶豫無之様

トノ 勅命アリ姫路侯奉シテ廿九日江戸ニ至ル

十五日彦根侯等ノ兵諸藩亡命徒ヲ撃テ之ヲ解散セ

シム

十六日日本橋ニ横濱岩龜樓ヲ引拂ハサレハ品川宿

岩槻屋ヲ焼クヘキ旨張紙アリ

十九日英人佛人ヲ召シ應接セントス来ラス

廿八日鹿兒島藩滋野孝之允等横濱ニテ英人ト應接

ス後數度應接十月廿八日金七万兩ヲ以テ生麥村

ノ事ヲ謝ス鹿兒島ノ事ハ英人答ル事能ハス薩人

之ヲ互ニ問フコトナシトセリ

十月

三日島津三郎復京師ニ至ル

七日攘夷別 勅使ヲ止ム旨 勅命アリ

同日福井老侯高智老侯ヲ京師ニ召ス兩侯直ニ京師

ニ至ル

十日名古屋老侯京師ヨリ國ニ歸ル

十一日大將軍ヲ京師ニ召ス

同日鎖港應接ニ付幕府ノ指揮ヲ得輕舉無之様 勅

命アリ

同日鳥取侯京師ヨリ國ニ歸ル

同日川越侯政事總裁タリ

十三日一橋公ニ命レ京師ニ行シム京師ヨリ召スヲ

以テナリ十一月十八日京師ニ至ル

同日岡山侯京師ヨリ國ニ歸ル

同日諸藩亡命徒但馬生野ヲ襲フ明日土兵ノ為ニ敗

死者十三人餘ハ或ハ捕ハレ或ハ走ル

十九日福岡侯京師ニ至ル

廿一日川越侯品川一ノ臺場守衛ヲ止メ廣島侯ニ命

レ守衛セシム

廿三日江戸ニテ浮浪徒一橋家臣中根長十郎ヲ斬ル

廿四日江戸市中諸處ニ米絹木綿紙油鹽炭薪ノ價ヲ

廉ニセサレハ天誅ヲ加フ旨張紙アリ

廿五日江戸ニテ浮浪ノ徒外國品賣買ノ商人ヲ諸所

ニ斬ル

同日品川川崎等ニ一橋公京師ニ赴クヲ止ル為メ本陣ヲ燒クヘキ旨張紙アリ

十一月

四日芝神明ニ五日ノ間ニ外國品賣買ヲ止メサレハ天誅ヲ加フ旨張紙アリ

五日大將軍再入朝スヘキ旨達アリ

六日金澤侯ニ朽木龜六仙臺侯ニ松平友三郎ヲ使レテ議スル所アリ

七日川越侯ニ前橋ニ城ヲ築キ川越ヲ上ケヘキ旨ヲ命ス

十日熨斗目肩衣ハ朔白帷子等ヲ服スル事復舊ノ旨達アリ

十五日本丸災アリ大將軍清水邸ニ移リ廿六日田安邸ニ移ル

十九日米入國書ヲ呈ス鎖港ノ事世界ノ例ヲ以テハ戰フヘキ旨ヲ云フト云

廿日浮浪ノ徒ヲ制ス旨并ニ郭内無燈夜行ヲ禁スル旨達アリ

廿二日庄内侯ニ新徴組ヲ付屬スル旨ヲ命ス

廿五日刈屋侯邸ニテ一橋家臣脇坂又三脇坂八郎菘藩福原乙之介等ヲ捕フ乙之介鬪死ス

廿七日亭船品川ニ来ル十二月十三日本条約ヲ結テ
去ル

廿八日池田筑後守河津伊豆守河田相模守ニ命シ
佛等ノ國ニ行キ鎖港ノ事ヲ議セシム十二月廿七日
日船ヲ發ス

此比江戸市中天誅燒拂等ノ張紙多ク甚シキニ至テ
ハ植炭ノ價未夕下リ申サス浪人様ト云張紙アル
ニ至ル一々之ヲ記セス

十二月

朔日款藩井原主計伏見ニ来リ主君ノ事ヲ歎願ス
四日水戸侯ノ品川守衛ヲ止メ中津侯ニ命シ守衛セ

八日處士桃井儀八川越侯ニ自訖ス上野浮浪ノ徒千
餘人横濱ヲ襲フノ議アルヲ以テナリト云

十二日岩松滿次郎不請シテ出府シ浮浪ノ徒横濱ヲ
襲ントスル事ヲ上言ス

十三日丸岡侯江戸ヲ發シ京師ニ赴ク

十六日浮浪ノ徒ノ事ヲ以テ諸國往来ノ者印鑑ナク
シテ通行スルヲ禁スル旨達アリ

廿三日西丸普請ヲ始ム旨達アリ

廿四日長門人下関ニテ薩摩ノ船ヲ擊テ之ヲ沈ム
廿七日大將軍江戸ヲ發シ海路ヲ經再ヒ入朝ス

廿八日瑞船品川ニ来リ条約ヲ結フ事ヲ促ス

近代月表卷之上終

二十三日... 二十日... 十九日... 十八日... 十七日... 十六日... 十五日... 十四日... 十三日... 十二日... 十一日... 十日... 九日... 八日... 七日... 六日... 五日... 四日... 三日... 二日... 一日...

明治六年酉四月 幾兒

- 東京日本橋通丁目 北畠茂兵衛
- 全 通二丁目 稲田佐兵衛
- 全 所 小林新兵衛
- 全 大傳馬町丁目 三家村佐平
- 全 須田町 太田勘右衛門
- 全 浅草第丁 北澤 伊八
- 全 横山町三丁目 太田金右衛門

